平成31年 第1回相楽東部広域連合議会定例会

日時 平成31年2月27日(水)

9:30～15:45

～速記録～

◎ 議長(杉岡 義信)

皆さん、おはようございます。議員の皆様には、何かとご多忙なところ、全員ご出席いただき、厚くお礼を申し上げます。本定例会に付議されました案件について、よろしくご審議くださいますとともに、円滑な議会運営にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。本日、裁判等に係る説明要員といたしまして、波多野環境課指導員を招致しておりますので、よろしくお願いたします。ただいまから、平成31年第1回相楽東部広域連合議会定例会を開会します。堀広域連合長、挨拶。連合長。

◎ 広域連合長(堀 忠雄)

皆さん、おはようございます。本日は、平成31年第1回相楽東部広域連合議会定例会をお願い申し上げましたところ、議員の皆様におかれましては、何かとご多忙の中ご出席いただき、まことにありがとうございます。さて、テールアルメ裁判につきましては、昨年12月26日に和解が成立し、1月末までに相手方双方から和解金の入金があったところでございます。今後、この和解金を基金に積み立て、擁壁等の安全対策を実施してまいります。本議会において、基金設立に必要な条例の制定についてお願いしているところでもあります。本定例会におきましては、この基金条例制定の件のほか、障害者介護給付費等支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部改正、平成30年度の補正予算、31年度当初予算、教育長及び教育委員の任命につきまして、ご審議をお願い申し上げます。何とぞよろしくご審議をいただきまして、ご議決賜りますようお願い申し上げます。本日は、まことにご苦労さまでございます。ありがとうございます。

◎ 議長(杉岡 義信)

これから本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配付したとおりです。日程第1 会議録署名議員の指名を行います。本定例会会議録署名議員は、会議規則第121条の規定によって、7番 畑武志議員、8番 坂本英人議員を指名します。日程第2 会期の決定を議題といたします。お諮りします。本定例会の会期は、去る2月19日開催の議会運営委員会において、本日1日間とすることで決定されておりますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎ 議長（杉岡 義信）

異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日1日間に決定いたしました。
日程第3 閉会中の委員会調査報告を求めます。初めに、総務厚生常任委員長 岡田勇議員。岡田君。

◎ 総務厚生常任委員長（岡田 勇）

皆さん、おはようございます。岡田でございます。総務厚生常任委員会の報告を行います。本委員会は、2月14日午前9時30分から和東町体験交流センターにおいて開催いたしました。まず、平成30年度一般会計予算執行状況について、総務課及び環境課が所管する事業に関して説明を受けました。委員からは粗大ごみの排出量が増加している原因について質問がなされました。次に、平成31年第1回定例会の概要として、相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例案、障害者介護給付費等と支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例案、平成30年度第3号補正予算案、平成31年度当初予算案、教育長・教育委員の任命について説明を受けました。委員からは、基金に関しては和解金の振込額やその根拠、基金の使用目的について。認定審査会委員の定数改正条例に関しては、条例改正の趣旨について。予算案に関しては、クリーンセンターの施設休止に伴うメンテナンス費用や、廃棄物処理計画の作成に係る業者の選定方法について質問がなされました。以上で、2月19日に開催をした総務厚生常任委員会の報告を終わります。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

続きまして、文教常任委員長 坂本英人議員。坂本君。

◎ 文教常任委員長（坂本 英人）

皆さん、おはようございます。坂本でございます。文教常任委員会からの報告を行います。本委員会は、2月14日午後1時30分から和東町体験交流センター会議室において開催いたしました。まず、教育委員会が所管する平成30年度事務事業の進捗状況と、1月末現在の予算執行状況について報告を受けました。委員からは、笠置小学校トイレ改修や空調設備工事に関して、その概要や工期について、また、高校生通学定期補助に関して保護者負担の軽減や、無償化等について質問が出されました。次に、平成31年第1回定例会の概要として、相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例案、障害者介護給付費等支給認定審査会の定数等を定める条例の一部を改正する条例案、平成30年度第3号補正予算案、平成31年度当初予算案、教育長・教育委員の任命の件について説明を受けました。その後の質疑応答では、第3号補正予算案に関しては、和東町史編さん事業について、発刊までのスケジュールや、過去に発刊した町史との関係性について、当初予算案に関して、卒業アルバムの購入補助や、小学校での英語教育本格的実施による授業時間

の確保の方法や、金曜学習、あそび塾の年間実施回数について質問が出されました。以上、2月14日に実施された文教常任委員会の報告を終わらせていただきます。

◎ 議長（杉岡 義信）

以上で報告を終わります。日程第4 一般質問を行います。質問時間は、答弁を含め30分以内ですので、質問及び答弁は簡潔明瞭にしてください。一般質問は通告制ですので、関連質問は許可しません。7番 畑武志議員の発言を許します。畑君。

◎ 7番（畑 武志）

改めまして、皆さん、おはようございます。議長の許しを得ましたので、通告書に基づき、また、今後の確認ということで一般質問を行いたいと思います。最初に、質問に入る前に、相楽東部クリーンセンターの歴史を時系列で整理しておきますと、昭和47年9月に、笠置町、和東町、南山城村の3町村で相楽東部じんかい処理組合が設立され、処理センターの候補地として、和東町の原山地内、また、杣田地内を転々としながら、平成7年3月にクリーンセンター建設予定地売買契約書が締結され、平成8年11月には、クリーンセンター建設工事契約書締結。平成9年4月に工事着工。そして、その2年間の工事期間を経まして、平成11年3月に完成し、今現在の本格稼働となっております。この間にテールアルメ工法による擁壁の崩落が始まりという事態が起きております。また、平成13年には、大北リサイクルセンターが積み替え保管施設を設置され、平成16年にテールアルメ工法による擁壁の崩落によって調査委員会が設置され、二十数回による調査委員会が開催され、平成19年2月に、日立造船と建設コンサルタントウエスコを提訴されました。平成22年4月、相楽東部じんかい処理組合から相楽東部広域連合に業務を移管され、平成25年4月から、3町村のごみの収集・運搬業務を1本化。また、平成27年8月から、参加町村の小型家電の回収を開始されております。テールアルメ裁判においては、平成26年に1審判決が出るも、日立造船と建設コンサルタントウエスコが訴訟し、そして、平成30年12月に和解となりました。来る平成31年3月をもって、クリーンセンターの一般廃棄物の処理に伴う地元の契約更新を迎え、この施設は地域の美しい環境を守り、住みよい生活環境づくりを目指して、約20億円を投じて整備されたものです。今回は、これらの経緯を踏まえて、現在の進捗状況についてお伺いをいたします。さて、廃棄物処理法では、一般廃棄物の処理は各自治体で処理することを定めております。これはもちろん原則論でございます。その考えに立ち、東部クリーンセンターを建設、運営されてきたことは、皆さんご承知のとおりだと、このように思っております。昨年12月14日の議会で、堀連合長もその考えに立ち、周辺地区住民と真摯に向き合い、そして、協定の延長を求めていくと答弁されたと理解しております。また、翌日の京都新聞にもそのように掲載されておりますが、そのお考えでよろしいのか確認をいたします。また、それまでの期間、ごみ処理については民間業者に委託するということが、地元の協定の期限も迫

っておるところでございます。これらについての進捗状況についてもお伺いをしてまいります。また、民間委託にすると、今までの予算と比較するとどのように違うのか、これも重ねてお伺いをいたします。次に、日立造船と建設コンサルタントウエスコとの間で長らく係争しておりました訴訟が、昨年12月26日に、企業側が3億8,000万円を支払うという形で和解が成立いたしました。これで擁壁を修繕する目途が立ったと考えております。これについての連合長のお考えもお聞きしたいと思います。以上、答弁の方、よろしくお願いたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長、答弁。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ただいま畑議員からいただきましたご質問にお答えをさせていただきたいというふうに思います。最初にこれまでの経過についてご説明をいただきました。この20年間を迎える当初から考えますと、本当にいろいろありました。当時は、地域住民の皆様方とも訴訟にまで発展すると、こういう不幸なこともありました。こうしていろいろと20年経ちまして、ご質問にもいただきましたように、終わるにつれて、3首長が地元住民に、これまでのお礼と、そして、これからのお願いを申し上げに地域に寄せていただきました。その時にいただいた言葉は非常に感動を受けました。役員の皆さん方が、こちらこそこれまで事故なくやっていたことに改めてお礼を申し上げたいと、こういう話でありました。そして、これまた延長の話をさせていただきましたが、下島区の皆さんは反対という言葉は余り、余りというのか出なかったと。こうして20年間迎えられることは、議員の皆さん方のご理解とご協力のたまものであったらと、改めて議員の皆様方にもお礼を申し上げさせていただきたいと思っております。しかし、そのときのお話としてはですね、住民からも延長という話をお願いする中では、やはり一呼吸置かせていただいて、そして、お願いをしていただこうと、まあこういうことになりました。確かに、地元の皆様方には、もう議員の皆さんもご案内のとおり、道路等の当初お話もさせていただいておったんですが、その一つ、これは町の方の循環道路もあるんですが、完成もされておりませんが、しかし、こう残っている課題もたくさんあるわけでありまして。そして、その間、テールアルメ擁壁のこういう問題も発生し、そして、和解も成立した。これはやはりきちっとして、また、方向も見定めてですね、そして、畑議員も、話の中にも質問にありましたように、真摯に向き合い、住民の皆さんにお願いをしていくことが大事だと思っておりますので、これ、引き続いてお願いをしていく、まあこういう方向で臨んでまいりたいというふうに思っております。当然、地元区が和東町ごぞって全部延長に賛成だということもありません。これ、周辺の各区関係へも回らせていただきました。中には、強く反対されている住民の皆様もおられることは事実であります。そうしたことも含めてお願いをしていくと、こうい

うことが大事だと。まあ一呼吸置くということと、そして、真摯に向き合ってお願いをしていく、こういう姿勢で臨んでまいりたいと思っております。そうすれば、これから、4月1日からのごみの問題はどうなるんだろうかと。住民の皆さん、そして、議員の皆さん方の非常にこうご心配があるところはその点だと思います。ごみについては、質問にもありました、廃棄物の処理及び清掃に関する法律というのがあります。この家庭ごみ、一般ごみですね。これの責任は行政が負わなきゃならないわけでありまして。当然、処理の方法、いかに関わること、行政が責任を負うということは、法律で定められております。今、焼却施設そのものは、まだご案内のとおり、これから予算をご審議いただく中にもありますように、公債費等をうたっております。また、そういった、まだ施設そのものは休止の状態になるもやむを得ないんですが、それはそのままあるわけだから、休止としての存在に、そういう状態に対応し得るような処置は講じていかないといけません、やはり住民の皆さんとの話し合いを大事にして進めていくという観点から考えますと、民間委託もやむを得ない。4月以降のごみの処理につきましては、今申し上げましたように、民間委託による処理を行うため、この1月中旬、受託候補者を選定するための提案公募を行い、1月末までに三重中央開発株式会社を代表とするグループ1社からの応募があったところであります。その後、今月12日には審査委員会を開催いたしまして、ヒアリング等を実施した上で、こちらが提示した上限価格内での提案のあった、この業者を受託候補者として決定させていただきました。現在、契約に向け、関係法令の確認等、全力を挙げて最終の詳細な詰めを行っているところであります。重なって申し上げることになりますが、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で、一般廃棄物の収集・運搬・処分までの地方自治体が責任を持つ必要がありますが、業務委託の場合でも、これは同様であります。決してごみ処理が滞ることのないように、適正に処理できるよう、4月からの民間委託に向け、万全の準備を進めてまいりたいと思っておりますので、どうか議員の皆さん方にもご協力賜りますよう、切にお願いを申し上げます。次に、この施設の今後の運営管理についてであります。休炉とはなりますが、現在、施設の延長再開に向け、先ほど申し上げましたように、地元をお願いし、そして、協議を行っているところでありまして、まだこれも続けてまいりたい。今後も施設を適正に維持、管理をしていかなければならない、こういう点もあるわけでございます。休炉に伴い、一時的な作業として、4月1日以降で炉に残っている、これをまずごみを取り出し、処分、さらには、環境衛生面から、炉の中の清掃を行わなければなりません。加えて、施設を維持していくため、定期的なメンテナンスの作業が必要でありますので、今議会の平成31年度一般会計予算にも、これらの必要な経費についてお願いしているところであります。休止して炉の中に入ってみないとわからない部分もありますが、できるだけ必要最小限の費用にとめているところであります。また、平成31年度一般会計予算では、一般廃棄物処理計画策定に係る経費についてもお願いしているところであります。こうした業務の中で、施設の長寿命化も考慮した今後の施設維持、管理、大規模修繕等を実施する際、活用できる補助金等の検討、関係機関の調整を行った

上で、今後の施設のあり方についても議論してまいりたいと思います。ただいま申し上げましたように、この計画、基本計画ですが、これはやはり先ほどの廃掃の問題。そして、こうして業者委託の問題、こうした上には、この基本計画が欠かせない大事な問題であります。そして、今後の炉のあり方をどうすることを考える、補助金等も受けてですけども、これをもってないと、そういう対象にはならないわけでありまして。そういう意味において、今回、この基本計画をきちっと策定して、いろんな状況に対応できるような体制をとってまいりたいと思っております。先ほどもう一つ予算との違いはどうかということですが、この大きなところで、現在運営している、今までこれ焼却処分している経費と、そして、業者委託している経費、大きくその範囲内でいける努力をしてみたい。これは31年度のこれからの予算でご審議いただく内容になっておりますので、その点もご理解をよろしく願いいたしまして、畑議員からいただきましたご質問の答弁とさせていただきます。よろしく。ありがとうございました。よろしくお願ひします。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑君。

◎ 7番（畑 武志）

私、去年から議事録も読んでおりました。施設のある下島区、そして、撰原区。これは何も延長続けて否定はしないということで、まあ一部の先ほど答弁されたように、一部のところが反対あると。だけど、協定は協定で守ります。これはもう私、理解しております。交通ルールでも、酒を飲んだら運転してはあきませんということだと、まあこれと同じルールだと、このように解釈しております。もう一つは、先ほど時系列にお話をいたしました、約47、約50年ですね。昭和47年ですから、今までの経過を見ると、約50年の経過があるわけがございます。その間に先輩議員の方は大変苦勞をされた中で、まあそういう施設の建設に向けて努力されてきたんだと、このように私は思っております。だから、いとも簡単に、まあ町長が今廃炉とは言っておられませんから、休止という状態ですけど、ただ、今住民の一部、和東町の一部の住民の方におかれましては、休止という言葉は廃炉というようにまあとられているようなことなんです。だから、非常に20億円投資した中で、もちろん、これは一般財源起債17億そこそこの一般起債を使っておりますが、そして、今答弁にありましたように、40年間のまあ耐用年数はあるということもお聞きいたしました。だけど、そうしたことについて、休止ということは廃炉というようにもとられてる方がかなりおられるんです。だけど、先ほど言いましたように、それぐらいの金額を投じた中で、もったいないなということが言われてる。もう一つは、和東町の住民の方は、あそこに処理センターがあるということは、皆さん既にご存じだと思います。ちょっと失礼ですけど、南山城村の高尾の方。それから、田山の方。これについては、あの場所にその施設があるということは、私知っておられるのか、理解あるのかないのかと、

ちょっと一部聞きますと、どこにあるんやと。その下島の焼却センターみたいなどこにあるんですかという声もお聞きをいたしました。だから、和東町だけがまあそうしたことについて一生懸命論議しておるわけですけど、まあ4月1日から住民に迷惑かけないというふうに連合長がここでおっしゃったから、まあそれは一安心したんですけど、その点についても、私、一つ疑問をもっておる。もう一つは、私の質問の中で最後の2点目なんですけどね。テールアルメ擁壁についても、まあちょっと答弁されてないということがありましたので、これについても一つお伺いしたいと思います。当然、次の議案で出てくることも、私も承知しておりますけど、ここでもう一度確認をしておきたいと、このように思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

最初に抜けておったテールアルメの件でございます。当然、これは和解の中にも示されております。裁判の中のテールアルメ擁壁等ということで、これが主になった裁判であります。これが和解の中ではありますが、やっぱり住民の安全、安心される状態に、やっぱりこう改修していかなければならないと。こういったことも、やはりこれから延長をお願いするにおいては、大事な問題であろうというように思っております。これは先ほども後でご審議もいただきますが、基金を設けて、そして、それをやると。先ほど答弁させていただきましたのは、どういう方向でしていくのかという方向を定めて、住民にも安心していただくことが大事だと、まあこういうふうに思っているところであります。当然、これからの延長の中でお願いする中では、この話もしながら、説明をしながらやってまいりたいと、まあこのように思っているところであります。それと、休止と廃炉でございますが、当然もう廃炉というのはもうそんで終いでありますから、まあ早う言うたら、もう壊してしまって、もうなくなる、要は更地にすると、こういうことになります。そうなりますと、今ご質問ありましたように、耐用年数の後のがどうなる。まだ公債費も見ている、そういう施設を壊してしまって、休止にしてしまっただけなのかという問題が1つあります。それと、廃掃法があります。委託したら、こんでもう壊してもいいんだけど、自分とこに施設がある。これが前提。自分とこの町で処理するというのが前提であります。それができないから、緊急避難をとるんです。こっちを主役がやめてしまたら、避難処置もありません。この存在も危うくなります。これは市町、うちも三重中お願いしますが、伊賀市にもお願いに行かなきゃならない。そして、承認を得なきゃならない。そのときには、やっぱりこっちで努力しているというのが前提。廃掃法に基づいてる。だから、この廃掃法による計画というのが大になりますので、今回の提案、本予算にも、この計画はきちっと立てますよというのが一つの内容になるわけですね。だから、そのためにも、やっぱりきちっと一

定のメンテナンスというんですか、そういったことが前提にあります。だからといって、何でもかんでも、ここが非常に難しいところであります。かければいいのかということはないですから、これはやっぱり経済的に一番にいい方法で、やっぱりやっていかなきゃならん。まあこういうことで予算化させていただいております。だから、一応、私どもは休止であります。休止であるから、次お願いに行くわけで、廃炉だと、もうお願いに行きません。ここが違うところあります。その点を一つご理解をいただきたいというふうに思っております。まあそここのところは、住民の皆さんには非常に難しいだろうと思います。いつしたら再開するねというのは、やっぱり住民の皆さんの、やっぱりこう真摯に向き合う。そして、今までやってきたいろんな問題整理できていないものを整理しながら、そして、テールアルメ擁壁の方向性もお示しながら、そして、住民の皆さんのご理解いただく中で再開すると。これに努めてまいりたい。まあそれまでの間、休止だと。そして、その間は緊急避難だと。そのときは民間委託になる。その根拠は何かというたら、基本計画できちっと定めていきますよということをご理解いただきたいなというふうに思っております。ちょっと抜けたところがあるかと思いますが、ダブったところはお許しいただきまして、一応、答弁とさせていただきます。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑君。

◎ 7番（畑 武志）

休止、廃炉についてのまあ見解はわかりました。これで、まあ住民の方も、私はそのように報告をいたします。で、このテールアルメ擁壁についてはね。地元住民の中には、協定の更新の前に施設の安全確認をするという意味で、擁壁工事を、改修工事が先だと、こういう議論もございました。これ和解が成立いたしました。一日も早く改修工事を終えて、地元理解を得る。これも一つ、私、手だと思っんです。そして、今この先ほど言われましたように、外部に民間委託するじゃなく、ここが問題なんです。自分たちのごみは自分たちで処理するという、この原則論。そして、地元の私はもう和東町ですから、地元の業者を守り、育て、そこで働く人たちの雇用保険を確保するということが、行政という一つの大きな責務と思っんです。その辺について、もう一点だけちょっとお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ただいま畑議員のご質問の内容のとおりだと思います。先ほどからの繰り返しになりますが、姿勢としては住民の皆さんと真摯に向き合い、そして、住民のご理解を得ながら進

めてまいると。その中には、当然、テールアルメ擁壁っていうのはどうなんだろうと、不安があるだろうと思います。あのままの状態をお願いしますということはいかがなものかと、このように思っております。そういう意味におきましては、やはりきちっと住民に安心していただき、そして、住民の皆さんと向き合って、そして、これからも延長の話をお願いしてまいりたい、まあこのように思っております。当然、これまでの先ほどちょっと抜けたと思いますが、加えさせていただきますが、このごみについてはですね。当時、一番最初のときに、ちょうど経歴の中で7市町村ですね。一時どれを何するかという箇所を決めて、それぞれの町村が努力してまいりました。まあそれなりでの努力をしてやってきたという経過の中であったものですので、どこの町村も皆ご苦勞をいただいております。まあこうすることで、ひとつご理解いただきたいというふうに思っております。以上、答弁とさせていただきます。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑君。

◎ 7番（畑 武志）

時間がなくなりました。最後に、連合長。これはやはり住民に理解を求めるなら、そして、将来的にこの環境の森センター、木津川市ですね。ここへごみ処理を受け入れようという要請もございます。しかし、クリーンセンターが限界。そして、使用できなくなった時の、私は最終判断と、このように思います。で、平成20年度にね。相楽東部3町村と木津川市、精華町がごみ焼却などを相楽圏域で1つの施設ということで計画について協議されております。それは確認しております。木津川市と精華町は、平成22年に策定した相楽西部地域循環型社会形成推進計画では、ここがございます広域化の検討状況いう中で、施設の建設予定地周辺住民の合意形成においては、1市3町1村を集約化する場合の合意形成は極めて困難として、従来のごみ処理の枠組みを継続することとあります。だから、まあこれから協議を進められても、やはりまずは東部クリーンセンターの再稼働に向けて努力するべきだという、私の思いを持って終わりたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

答弁は。

◎ 7番（畑 武志）

答弁、もう時間ないです。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

今、畑議員が質問ございましたように、ごみの今後、焼却がいかがな方法が、やっぱり最善の方であるかと。まあ広域的にも。また、木津の今やられてるところにお願いも、これは一つの手段としてですね。内容として、できる限りの最善策をとれるように頑張ってもらいたい、まあこのように思っております。以上でございます。

◎ 議長（杉岡 義信）

まだ時間あるけど、もう終わるか。これで7番議員、畑武志君の一般質問が終了しました。続きまして、9番 奥森由治議員の発言を許します。奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

議長の許可を得ましたので、通告書に基づいて質問をいたします。先の議員と重複する点もありますが、大きく2点について質問をいたします。じんかい処理施設クリーンセンターについてであります。長年にわたるテールアルメ擁壁及び周辺土地変状に伴う損害賠償請求の裁判において、昨年12月に和解が成立をいたしました。そこで今後、危険な状態にあるテールアルメ擁壁について、どのように対処されるのかお伺いをいたします。次に、今後のごみ処理についてであります。じんかい処理施設においては、関係地域との協定が本年3月で終了することから、緊急対策として民間委託の方向で進められておりますが、関係地域には引き続き稼働すべく同意が得られるよう努力されているが、連合として、今後どのような処理方法を目指すのかお伺いをいたします。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

奥森議員からいただきましたご質問にお答えをさせていただきたいと思います。最初のご質問ですが、テールアルメ擁壁裁判の和解を受けてですね。今後、この方法をどうされていくのかと、まあこういうことであろうかと思えます。まずは、やはりこの問題は早期に進めていかなければならない問題であります。ここはやはり裁判でも争点になっておりました。住民の安心、安全から考えても、早期にかかるということで進めてまいりたい。しかしながら、こうして和解金が入金いたしました。ここはやっぱりこの一つの資金として、まず基金設立をお願いして、ここでまずその資金を確保する。そして、これまでから裁判申し上げてきましたようにですね。テールアルメ擁壁の如何にどういう方法がいいのか、どういう安全対策をとるか、こういった問題を詰めていきたいと思えます。当然、裁判でいろいろとお世話になっておりました根拠も示しておりますように、いわゆる神戸大

学の澁谷教授、こういった方にも何回か現地に足を運んでいただいているわけでありまして、こういった先生方のご意見も聞きながら、今後どうした方向で工事の施工を進めたいか、また十分詰めてやっていきたいと思っております。この安全対策は、もうこれは早期に着実に実施していくというのが重要なことでありまして、具体的な擁壁等の安全対策につきましても、今後さらに今申し上げましたように深くかかわっている現地の変状、これまでの経過現状についても熟知いただいている、そういったご指導をいただきながら進めてまいりたいと、このように思っているところであります。それから、今後のごみの処理ということで、ちょっとこれ重複して申しわけございません。これやっぱり最初の一番大事なことは、やっぱり施設を持っているわけですから、その施設で延長して処理していく。これが前提であります。そして、将来、畑議員の質問ありましたように、含めて3町村でやるというのは、これまではずっと続けるのかということになれば、これまた経済的ないろいろな面ありますから、一方ではやはりもっと広域でやらなきゃならんねという努力もやっぱりしていかなきゃならない。これも大事な話であります。しかし、なかなか現状からこの問題は容易なことではありませんので、延長をしていく。これを努力をしていくと。まず、最初に申し上げさせていただきたいと思っております。しかし、先ほども申し上げましたように、もう1つはやっぱりこれまで住民のご理解とご協力をいただきながら進めてまいりました。だから、住民の皆さんのこのおかげで20年間を迎えることができました。先ほどのご質問にもお答えしましたように、その地元にお世話になっている下島区の皆さんから、こうやって無事に20年間してこられたこと。こちらの方から改めてお礼を申し上げたいと。この言葉聞いたときには、本当にじんと来ましたですね。だから、そういった住民の思いにやっぱり真摯に受けとめていかないといけないと。やっぱり住民との向かい方を大事にしながら、これから延長の話を進めてまいりたいと思っております。当然、これまでから住民といろいろ申し上げてきた内容が全て無事それが全部できているのかと言ったら、ちょっと今積み残しの分があります。もうご案内と先ほどもダブりますが、あそこの接続する道路問題とか、いろいろそのときの条件として出されておったのですが、それすら完成していないところもあります。そういったこともやっぱり行政としては努力していかなきゃなりませんし、いろいろな問題やっぱり住民ときちっと向き合って、そうやって延長の話をしていくと。こういうことであります。これなかなかやっぱりそう向き合って真摯になってやっておったら、時間どうなんねんと。やっぱり時間がないから無理にお願いするというのも、やっぱりこれはいけないと思っております。この間やっぱり緊急避難とりながら、この場合は三重中をお願いして、やっぱり処理していきたいというふうに思っております。これは当面の話であります。これでやれやれではなく、これからがスタートであります。そういう意味では、私たちもこれからこういったことは本当に肝に銘じながら、これまで過去のいろいろな問題もありますので、そういったものを銘じながら進めてまいりたいと、このように思っているところであります。だから先ほど、休止と廃炉じゃありません。休止であります。これは法律上の問題もそういうことになっておりますので、

ご理解の方よろしく願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

先の議員の答弁からも推測できるのですが、再度確認をいたします。当然、テールアルメ擁壁の変状が問題で裁判を起こしたと。和解をしたということは、一番先に何するねんと言ったら、その変状を安定したものにすると。今、撤去するのか途中まで撤去するにしても、手戻り工事にはならないと。あそこで再稼働するにしても、もう一度擁壁をつくるのか、それは専門家の意見を聞いたらいいですが、ヤードを確保しようとするれば手立てをせないかんわけですし、どういう形になるのかは別としても。そやけどもまず、危険な状態のものを解消するのが裁判の基本であったんじゃないかというふうに思うのです。それは連合長も同じ考えだと思うのですが、まずやるんだと。取り壊すというのですか。安定な部分まで最低でも取り壊しというのか、するという考え方だと思うのですが、その辺には同じ意見だというふうに思うのですが、再度確認をいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

奥森議員のご質問にお答えをさせていただきたいと思います。今、ご質問にもありましたように、一番大事なことはやっぱり住民の安全策をどうとるか。あそこにはやっぱり畑を持っておられる農家の方もおられます。そのことはどうとるべきかというのがやっぱり大事だと思います。合わせて、やっぱり経済的なことも当然考えなければならないと思います。だから、先ほども答弁させていただきましたように、この現地を熟知されておる、そういった専門家のご意見も参考にしながら、慎重に進めてまいりたい。これはやっぱり1にも2にも奥森議員が言われますように、住民の安心・安全さえもこれを超えていくと。これが大事だと思っております。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

よくわかりました。まずは住民の安全・安心のため、緊急にでも対策を、1日でも早い対策を講じられるように、要望しておきます。次に、施設の延長であります。一番難しい

問題だと思います。それは3つの問題があります。地元の同意も得なければならない。緊急対策をする。将来は広域化を目指しますけども、この広域化の時期の目途がわからない。地元の同意がその積み残しの問題もあって、どの時点で同意が得られるかもわからない。されど、炉は炉で維持管理をしていかなければならないという問題があります。そしたら、その維持する分だけ言うたら費用負担が増にならないかというふうな費用の問題も出てきます。ただ、三重中へ持っていきただけで前と同じだけであったとしても、ほんなら維持する分だけが増額という形になろうかというふうにも考えられますし、どの時点を目指すのかと、それは連合長に質問している方もそれは大変だと思うのですが、目指す方向としてはちょっとそのおっしゃっている言葉はわかるのですが、廃掃法から言ったら自前の施設があるから緊急対策をするんやけども、休止の状態ですと行く。同意が得られない休止の状態が行って広域化で木津川市へお願いする方向を目指すのであれば、施設の維持、表向きは施設はありますよというだけで済むわけですわね。変に金かけんかっていけるといふ方向になりますし、いやいや木津川は2番目で、まずは先ほどの答弁ではまずはあの施設を延長して続けていくというふうに答弁されたと思うのですが、再度確認をいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

奥森議員からいただいた質問にお答えをさせていただきます。まずは最初に、やはり休止ですから、これ再延長に向けて努力していくというのが我々の責任であろうと思っております。これはやっぱりそれに向けてやらなきゃならない。これは、そのためにも言葉で真摯に向き合うという答え、さっきの最初のそういう条件整備を切ってやっぱりやっっていくのが、我々はやらなきゃならないことをやってほしいしなきゃならない。それを置いてお願いに行くというのは真摯ではないだろうというふうに思っております。それをやっぱり十分進めていく。しかし、方向としてはいつまでもこんな状態やけど、それでもう努力しないとか、やっぱり広域化のさらなる努力、我々はこれも一つの責任としてあります。だから、今奥森議員が一番質問している方にも難しいんだというところを一つ、1点ですが。これは今まで延長してもらえて再延長して経費が100としましょう。今までが100。今、緊急避難とっているところも、120だったら緊急避難が20増えることになりますね。だから、私ども基本の、目途というのは、100以内に抑える努力はしていくべきだと。このように思っております。ただ、そのときに、初年度の1年目に係る金額と、2年目に係る金額、これやらなきゃならない。内容も違うのですね。早よ言うたら、これやっぱり炉の中にたまっているものを、これをもっと少なくすむように今努力せいと今、指示はいたしております。しかし、残っているくずも残っていくと、これまた悪影響

起こしますから、地元の真摯に向き合うという観点から言うと、やっぱりきれいに掃除しないとイケない。それともう一つ、再延長するときにそれを残しておく、さらに維持が問題になります。これやっぱりきれいにしなきゃ。そのきれいは一時的な1年目の投資がありますね。これとそれが2年目続くと言うたら残留になるかと言ったら、これはもうないですね。それと合わせて、1年1年やるのが、今まで何か月に1回せなというやつが、状況を見たらひよっとしたら3か月か4か月で済みますねとか、5か月でいいですか、やりながら見ていきますね。1年でやらなきゃならないって形式的にずっと続けるような状態だったらこれはあきません。だから、金額の予算とかこれからの金額のご審議は1年1年見定めて、そしていろいろとそのとき契約しながら、不必要なものは省き、そうやって必要なことは出てくるかもわかりません。そういうものを検査しながら。そうやって全体的には継続で流れている金額より目安ですよ。それはそれでいいんじゃない。いいんじゃない言うよりも、一つの考え方だろうというふうに思っております。この辺はこれから1年1年の予算の審議のところでご審議いただきながら、皆さん方のご意見もいただきながら進めてまいりたい。このように思っているところです。大変難しいところですが、そういう考え方でご理解、ひとつよろしく申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

最後にお聞きをいたします。関係地域の同意を得られるよう努力されているようですが、積み残しの点もある。下島地域では特に反対の声もないということもお聞きをしますが、連合長の感触としてその積み残しがクリアになる。その問題を解決しなければ同意が得られないのか、ごまかしでもできるのか。ごまかしってちょっと言葉語弊ありますけども、何とかお願いをしたら再延長、延長の同意が得られそうやというふうに感じておられるのかね。今の時点の感じだけお伺いをして、私の質問終わります。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

まず、住民の皆さんと真摯に向き合うということが、何回も繰り返して申しわけございません。これは基本姿勢であります。そのときの話の中で、例えば積み残しというのは、これはやっぱり連合でやるよりも和東町でやらなきゃならない問題もあります。それと、和東町のやらなきゃならない、完成さすよりその計画の中にきっちり入れさせていただくなら、そして念じて進めていくというだけではもう完成なかったもので、お互いに信頼が

得られますので、信頼の中で話し合いの、これはまあ一つの方法だろうと思います。それと、さっきの質問、安全策ですね。安全策もやっぱり住民に、これだと安心だと。これだとやっってもらんだと言ったら、完成までを待たなくてもひょっとしたら真摯の話し合いの中で方向を示せば、これはこれでいいねという話になるかもわからないですね。これはやっぱり真摯と、さっきくどいですが、やっぱり姿勢の中でお互いの信頼の中でどのように発展するかわかりませんが、私たちの姿勢は完成して、はい、できましたからお願いやなしに、常に示しながら私たちのやっている方向をご理解いただいて、これだったという信頼を得た中でスタートだと思っております。これできるかできないか、努めてまいりたい。だから、真摯というのはそういうことです。ただ、もう一つは、今施設のある下島区だけの話を申し上げました。これを通っている道路を通っているのは、違う周辺道路を通らせてもらっています。そして、近隣からも環境どうやって言われております。そういった中で、まずそれぞれのところで全部が賛成かと言ったら、さっきも申し上げました。非常に反対の強い意向もあります。こういったことにも向き合ってくださいね、やっぱりやっっていくことが大事だと思っております。こういったいろいろな施設というのは、やっぱり住民のご理解をいただきながら進めていくというのが前提でありますので、そういったこともきちっと入れながら進めてまいりたい。ここも非常に難しいですが、これからの連合として私たちの努力のところだと思いますので、それにまたご理解、ご支援をいただきたいなどこのように思います。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

9番、奥森由治議員の一般質問が終了しました。続きまして、8番、坂本英人議員の発言を許します。坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

通告書に従いまして、ご質問をさせていただきます。笠置町小学校空調設備についてご質問いたします。来年度の当初予算に笠置小学校空調設備の設計予算を組んでいただいておりますが、文教常任委員会で事務局及び教育委員会にお尋ねしました。笠置町と協議をどのように進めておられるのかお聞きします。以後の質問は席に帰って発言いたします。すみません。失礼いたしました。来年度予算計上される際、笠置町から何らかの要望またはヒアリングは行われたのか。近い未来に生徒が25名を下回り、複式になることが予想される中、今後、統廃合の検討も考えられる。もし統廃合になり笠置小学校が廃校になった場合、起債を返還しなければならないが、笠置町としては、どのようにお考えか。子どもの教育環境の充実は保護者である私も切に願います。しかし、町の財源や学校の育成を考えると単に空調設備を整備することを目的にするのではなく、笠置小学校のあり方をしっかりと考えた事業として考えなければならないのではないのでしょうか。以後の質問は席に帰ってさせていただきます。

◎ 議長（杉岡 義信）

西本教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

先に私の方からお答えさせていただきます。坂本議員のご質問、笠置小学校における空調設備についてお答えさせていただきます。まずは空調設備の整備に向けたこれまでの経緯についてです。連合管内の小中学校におきましては、各町村及び議員の皆様のご理解のもとに相楽地方の他の市町に先駆け、平成29年に和東小学校、和東中学校、笠置中学校において、空調機器を設置し、今年度、南山城村小学校で設置完了となって笠置小学校を残すのみとなりました。笠置小学校は、他の4校に比べると校舎の風通しも幾分よくて、また学校の思いとしても予算編成上、体育館の天井改修やプールの修理、校内ネットワークの整備、トイレの改善などを優先してきたこともあり、現在に至っている次第です。さて、ご承知のように学習指導要領が変わりました。新学習指導要領に小学校に英語科が誕生しました。このことによって授業日数が増加となって夏休みの短縮、すなわち8月27日に2学期の始業を余儀なくされたところです。5日間早い始業となりますと残暑厳しい折でもあり、笠置小学校においても空調設備は不可欠となります。このたびは学校側の要望もありまして、本年度当校の設備設置に着手した次第です。笠置町当局にも設置についてご理解いただきました。調整に当たっては笠置町からの特段の指示はなく、教育委員会の計画を受け入れてもらいました。結果として31年度に空調設備の設計を済ませ、32年度には設備工事に入るという2か年計画で整備することで共通理解をしております。ただ、笠置小学校の場合、他の学校のように全普通教室に空調を設置するというのはいかかなものなのかという思いもあります。31年度の設備設計の結果を詳細に分析して、笠置小学校の児童にとってどのような空調形態が適しているのか、どのぐらいの規模が適正なのかなど笠置小学校にふさわしい、ならではの設備について、町当局、学校、また保護者の思いを踏まえて検討していきたいというふうに考えております。次に児童数減少とハード事業についてお答えいたします。坂本議員は児童数が減少しつつある中で、空調設備をはじめとするハード面の充実については、慎重に対応すべきであるというお考えなのかというふうに思います。まず、笠置小学校の児童数ですが、平成31年度26名、32年度28名、33年度26名、34年度23と推移し、36年度には20名を割るようなことを聞いております。ただし17、8名程度ということですから、教育活動ができないということではありません。このように児童数の減少が進行する中、いかに立派な器をあつらえても活用する児童が増えない限りその器は十分に機能しないのではないかという危惧はないとは言えません。よって器づくりは極めて慎重に進めなければならないと思っております。ただ、いずれにしましても、まずは目の前にいる今の子どもたちにスポットを当てるのは最優先だろうと思えます。施設設備の充実は先々を見通し、現状を見定めて取り組

むこと。そのさじ加減がきわめて大事であると考えております。人口増につきましては、笠置町当局もさまざまな取り組みを計画・実行していただいております。もちろん教育委員会や学校も指をくわえて厳しい現状を静観しているわけではありません。例えば笠置小学校におきましては、少人数のよさを生かした個に応じたきめ細かい指導を受けることができる、笠置小学校では授業で落語をやっている。カヌーや和太鼓も体験できる。教育費の削減にも取り組まれている。何よりも子どもたちは地域の人々に支えられ、包み込まれているなどなど、小規模校の特性を生かしたならではの魅力ある学校づくりについて、懸命に情報発信をしております。これらを受けて笠置に行ってみようか、笠置小学校に学ばせようか、そんな人が1人でも2人でも出てきてくれたらと願っているところです。笠置小学校の子どもたちは人数の少ないことを引け目に感じていません。彼らの持つ常に前向きで誠実な姿勢、純粋な心が絶えることがあってはならないと実感をしております。最後に子どもの教育環境の充実についてです。連合教育委員会におきましては、安心、安全の確保に向けた教育環境づくりは、学校教育の重点課題として取り組んでおります。議員ご指摘のとおり、空調設備の整備は単に一例に過ぎず、教育環境づくりは、総合的に考えていくことが大事であると認識しております。笠置小学校の足元をしっかりと見つめ、笠置小学校の周りを見渡し、笠置小学校の先々をきちんと見通して、さらにはさまざまな角度から、あらゆる視点から検討を加えて教育環境の整備に努めることだと思っております。教育委員会としましては、今後はもちろん笠置小学校に限らず、各小中学校の課題、進むべき方向性を考慮し、かつ厳しい財政状況を踏まえて、当局と相談しながら教育環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。ご理解のほどよろしくお願いをします。

◎ 議長（杉岡 義信）

西村副連合長。

◎ 副広域連合長（西村 典夫）

ただいま教育長からも答弁ありましたように、このまま推移をしていけば3、4年後、児童数は25名を割って複々式となる恐れがございます。町といたしまして、これ以上児童数が減らないような施策を町を挙げて予算を付けて講じて参ります。万一、こういうことが叶わなかった場合も、少人数学級、笠置小学校ならではの教育を充実させて展開をしていきたいとそのように考えております。大事なのは、地元から小学校がなくなったら寂しいとかそういう感傷的なものではなくて、子どもファースト、どんな状況になっても子どもたちに最善の教育を届けられる、そのようなことが行政には問われていると思っております。そういう廃校ということは、選択肢には考えておりません。子どもたちにどんな状況になっても最善の教育を届けていきたいとそのように考えておる次第でございます。

◎ 議長（杉岡 義信）

坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

教育委員会もしっかり考えていただいているということはよくわかりましたが、気になった点は、教育委員会から町に打診をしたと。確認をしたと。学校から要望があり、教育委員会から笠置町に対して、今回設計業務を組みますと。笠置町は、そのままオーケーだということで通ったということは、その起債の部分だとか、ここから統廃合を考えていないということなので、起債は一切返還しないという思いがあるということなんでしょうけど、本当の現実的な話なのか。例えば今5年生が2名です。じゃあ2名で同窓会しますか。僕は今、役職で京都府のPTAの方にも参加させていただいていますけども、そこで統廃合になった学校の親御さんたちにもやはり会うことがあります。そこで僕たちの町には、こういう地域課題があるという話をしたところ、僕らのところもそうやったと。近くで言えば、当尾小学校もそうだったと。学校がなくなった時にやはり地域が寂しくなったという話は、多く聞いたと。ただ、親とした時に自分の子どもに同級生がいないという環境がどれほど寂しいものなのかと。おとんなんであの時にうちの学校守ったんやと逆に思われた親がいた時に町長は、頑なに小学校を守るとおっしゃるからね。それが本当に子どもたちの未来を切り開いていることなのか。小学校は6年間、中学校は3年間、合わせて9年間の人生です。その後の人生のことは、じゃあ今の大人はどう考えるのか。1人で同窓会。1人飲みするのかという話です。こんなことまで考えないといけない状況に今あるわけです。それでも学校を守る。じゃあどうやって守るのかと。ほんまに現実的にこの間、委員会の中でも半分くらいの教室に入れようとか一つのクラスにまとめようとかいろいろな案があるというのは、お聞きしましたが、笠置町が単に充実化をすれば、有権者の見栄えがいいとか、聞こえがいいとかというところだけで判断してるんじゃないのかなとやっぱり思わざるを得ないんですよ。トータル的にほんまにどうやって町を挙げて取り組んで行かれるのかというのはお聞きしたいです。

◎ 議長（杉岡 義信）

西村副連合長。

◎ 副広域連合長（西村 典夫）

ただいまの坂本議員の再質問にお答えしたいと思います。先程も申しましたように、手前とか見栄えとかで学校を存続していきたいと、そういうことはあつてはならんと私は考えております。先程も申しましたように、どんな状況にあつても子どもたちにしっかりした教育を届けたい。そういうような思いでおります。5年生が2人、また他の学年も3人、4人、5人とそういう状況の中で、そういう子どもたちがもっと広く交流したい。もっと友達が欲しい。そういうことも要望、要求されていると思います。そういうことにつきま

しては、やはり相楽東部3町村が体験、交流など一緒にして、修学旅行とかも一緒に行く。そういうことでそういうことを克服をしていきたい。さらにそういうことについては、充実をさせていきたいというふうを考えています。

◎ 議長（杉岡 義信）

坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

ちょっとぼかんとした感じなんですけどね、例えばさつき町長がおっしゃったように町を挙げて予算を付けてというのは、その予算は何のために付けてどういうふうに消化していきます。そうすれば笠置の未来はこうやって広がっていくんだという話があれば統廃合せずに済むんであろうということに、少しの光が見えそうなもんですけど、実質的な数字の根拠が一つもないと。当初予算はまだ上がって来てませんから、前でもっと言えないのかもしれないけど、大体これぐらいの人数は、僕が考えている事業が進めば、これぐらいの人数確保できて、今の小学校30人くらい目標に生徒数を頑張るんやという話になれば、もっともっと充実させた教育環境をつくっていかないといけないですよという話で終われますけどね、僕らの時から南山城村の小学校との勉強もありましたし、林間学校、修学旅行というのは、5年、6年で合同で行ってました。それは、僕が子どもの頃からそうです。今それが和東町まで広がって僕の息子も和東に仲いい子がいるねんと言って喜んで話をしてくれます。それは分かっていますけど、競い合うとかどうとかこうとかじゃないんです。笠置の小学校の話なんですよ。笠置の小学校がこれからほんまに町長は、あと何年されるのか、次出られるのか分かりませんが、何年後のことを見据えて今お考えなのか。具体的に何人くらいの小学校が望ましいのか。僕らの当時は、100人くらいの生徒がいました。クラスは一つやったけども、みんな頑張ってやっていますと。競い合いもありました。スポーツも競争もできました。どれくらいのスケール感の学校をつくれば、ここから投じていく予算が順当なものになるのか、投資になるのかお聞かせください。

◎ 議長（杉岡 義信）

西村副連合長。

◎ 副広域連合長（西村 典夫）

具体的な児童数はどれくらいを思っておられるのかということですが、私は、30人くらいの小学校の児童数を目指したいと思っておりますが、当面25人を切らないような施策をどうしても取り組んでいきたいと考えております。予算のどこにつきましては、まだ発表もしておりませんので、まだ控えさせていただきますけども、いろんな手段や手法や手だてがあると思っております。笠置にとってどのような施策が合っているのか、

できるのか、そういうことについては、行政だけではなく町民相手、町民の人にも協力をしていただく。そのような施策も投じて参ります。そういう意味で行政、地方、地域を挙げて児童数の減少に取り組んでいきたい。そのように考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

多分堂々巡りになるとは思いますので、この辺で質問はやめたいとは思いますが、30名の生徒数を目標にするのであれば、それをどのようにこなしていくのか。取り組んでいくのか。町を挙げてというのは、どういう部分で町を挙げるのか。移住・定住の施策もそうです。教育施策となれば、端的に1人の子どもに対して2人の親、1人の親というものが考えられるわけですね、人口増とすれば。どこを本気で取り組むのか。教育をするならここまでフォローせなあかんということまでやっぱりこの場できっちり話をしていたらね、東部3連合でやっていっている一つのモデルケースが笠置でできるとか。それを連合長、村の副連合長に伝えていけるとか。笠置がモデルになるんやという施策をきちんと説明していただければ、教育長がおっしゃったような教育委員会がこういうふうを考えていますということもリンクしてくると思うんですよ。あまりにも内容の質というか、施策の中身というか、考えているところがちょっと違うのかなと。教育委員会は、本当に子どもに対して、まっすぐに各学校ずつ見ているんだなというのは、よくよく委員会を見て分かりますけども、笠置町がね、どうしていくことが笠置町、連合教育委員会を豊かにしていくんやというものが今の町長の答弁では、何かやってくれるんやなということとは分かります。ただ、どのようにやっていくかは分からないと。僕も町民の1人として協力できることは、全面的に協力しますし、僕も今3人子どもを小学校に預けている身です。教育環境の充実というのは、親としては、冷房入れたってや、暖房入れたってやとそれは当たり前のことです。ただ、一つこの職に帰れば、本当にそれが的確なのか、何年後を見据えた今の投資なのかということは、きちんとみんなに説明していかないといけないと、そういう世の中になってきていると。その中で今日の町長の答弁というのは、僕らは、少し物足りない部分もありますし、具体的にこういうところにこういうふうな夢があるんやというところまでは、お聞きしたかったです。また、町の方に持ち帰って夢を熱く語りたいたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

西本教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

坂本議員のおっしゃることは十分よくわかります。特に来年は、6年生2人です。本当にここは心配しています。2人で何ができるんやろうかと。だから今取り組んでいます3小学校の交流学习、合同学習ですね、おっしゃるように卒業したときに同級生2人やったなど。そうじゃなくて、やっぱり和東小学校、南山城小学校にも仲間がいたんやなど。こういう思いが続けられるように頑張っていきたいというふうに思います。だから教育活動から言いましたら、25から30人は欲しいのも当然です。ただし、先ほども申しましたように20名切ったら教育活動ができないということではありませんので、そのあたりですね。もちろん教育委員会の思いと笠置町とですね、もっともそのあたりのところを詰めながら施策というのも考えていきたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

8番、坂本英人議員の一般質問が終了しました。この際15分間休憩します。議場の時計が55分ですので、11時10分まで休憩とします。

（休憩 10：55～11：10）

◎ 議長（杉岡 義信）

休憩前に引き続き再開します。日程第5 議案第1号 相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例の制定についてを議題とします。提案理由の説明を求めます。堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例制定の件について、ご提案を申し上げます。相楽東部クリーンセンターテールアルメ擁壁及び周辺土地変状に伴う損害賠償請求事件については、平成30年12月26日に和解が成立したところでありますが、今後擁壁等の安全対策を講じるに当たりまして、この和解金を適正に管理・運用を行い、必要な費用に充てるため、地方自治法第241条第1項の規定に基づき、相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例を制定するものでございます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

続いて議案の説明を求めます。事務局長。

◎ 事務局長（安原 正康）

それでは、議案第1号相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例の制定について

て、ご説明させていただきます。条例案をご覧ください。この条例は7条からなっており、まず第1条は基金の目的について定めております。クリーンセンターの擁壁等の安全対策に要する費用にあてるため、この基金を設置するものでございます。第2条では基金の積み立てについて、第3条では基金に属する現金の管理の原則等について規定しております。第4条は、基金の運用から生じる運用益金の処理について、第5条は繰りかえ運用についての規定を設けております。第6条は基金の処分基準について、第7条は連合長への委任について、それぞれ規定を設けております。また、附則におきまして、この条例の施行期日を公布の日からとするものでございます。なお、具体的な基金の積立等の金額につきましては、後ほど議案第3号平成30年度相楽東部広域連合一般会計補正予算（第3号）でお願いしているところでございます。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

これから質疑を行います。なお同一議員による質疑は、同一議題について3回までとしておりますので申し添えます。質疑はありませんか。岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

先日の委員会でも説明を受けまして、そのときに一応とりあえず確認を見たところはあるんですけども、本会議の場でのもう一回確認を取りたいと思うんですけども、今回相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例案となっておりますけども、あえてここに「等」と入っていることで確認を一つ、何を意味するのかということを確認をしておきたい。委員会でも確認をいたしましたけども、やはりこれは目的があって、基金を積み立てられるものですから、この目的以外のことには当然ながら使用することはないということで、そこは是非連合長に確認の意味も込めて答弁をいただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ただいまの岡本議員のご質問にお答えいたしたいと思います。これは一番の大事なところは、裁判であります。裁判の和解の内容、これのやはり履行というのが一番大事なところなんです。そしてそれまでに要した費用も当然であります。そうしたことに充てるということ。一番のこの主張としては、この擁壁裁判と置いておりますが、それに付随するいろいろな内容全て入れさせていただいている中で「等」とか見ていただきます。よろしくお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君、ちょい待ち。答弁される方については挙手でもって、大きな声でお願いします。そうでないと、誰が答弁されるのかわからへんのです。どうぞこちらもよろしく願いいたします。岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

わかりました。そこは確認だけしときたいと思います。それと、やはりこれは先ほど言われましたように、いわゆるテールアルメの擁壁の安全対策ということに主に使われるということで積立てれるわけですけども、先ほど来、一般質問等でも話がありましたように、いつじゃあこれを活用して実際に安全対策を行っていくのかということがより大事だと思うんですね。先ほど来の話の中ではいろいろ経済的なことも含めて慎重にいろいろ検討していきたいという答弁はありましたけれども、具体的にじゃあ来年度の中で具体的に施行されていくという、そういう目途はもう持っておられるのか。いわゆる地元との今後再稼働の協議に入りたいと言っておられましたけども、一つの条件と言いますか、どちらか安全対策があると言われておりました。となりますとやはりいつまでもこういうところに行かないと、というのは答弁があったとおりでと思いますが、具体的にいつまでに安全対策をやっていくのか、そういう目途は。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

基本的に一から申し上げますと安全対策でありますから、速やかに向かっていく。速やかにですが、予算初期に必要なものとか、必要でないものというのがありますが、必要であるものが出てくる場合には、本年度やなと補正も講じますけれども、なければ当初からいくと。予算がないからと言ってかからないということではありませんが、これも準備等とか先ほども申し上げましたように、裁判に関わっていただいた先生方との協議を進めていかなければなりません。そういったことも含めてですね、速やかに進めていくというのが、方向で考えていくということでご理解いただきたい。

◎ 1番（岡本 正意）

速やかにという話がありましたけれども、速やかにと言った場合にですね、じゃあいつなのかということだと思うんですけどね。政治上の中ではすぐとか一日も早くとかいろいろ言い方があって、結局何年もしないみたいな話がたくさんありますから。やっぱり今までテールアルメ自身は大変危ないというふうに繰り返し答弁もされてきましたし、早く施行しなくてはいけないということも言うておられましたけども、ただ裁判があったもので、裁判がやはり決着つけないとさわれないという理由で先延ばしされてこられたとい

うのだと思うんですね。それだけに少なくとも来年度の1年の中でいわゆる安全対策は終了すると、またはちゃんと着工すると、そこは確実に目途があるということで確認させてもらってよろしいでしょうか。

◎ 議長（杉岡 義信）
連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

はい、お答えいたします。先ほども申し上げましたように、和解でこちらに、和解の責任がきていますので、これはもう早くやっつけていかないと責任問題もついてくるのであります。そういう意味では速やかに着手というのか、いろいろな準備とかもありますので、この事業に向けてやっていきたいです。必要であれば予算化もしていくということもあります。そうやって当面、どういう方向か、そうやって設計も入れていかな、それに基づくコンサルの設計が入ってくる。そうやってそのことによって金額、ことによって工期が決まって行くと思います。まずは、きちっとどのようにやるかということを経営設計ですね、仕上げていかなきゃならない。こういうふうに思っているところであります。今言われた1日も早いというか、もう本当に私たちの責任もありますので、やっぱりそれこそ年度で言えと言えけれども、2年も3年も渡れる、方向としたら、単年度で済ましていくような形を取っていきたい。このように思っています。

◎ 議長（杉岡 義信）
ほかにありませんか。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ちょっと済みません。単年度と言うのは、今のこの30って今の年度ではじゃなしに、かかるのは今からですけど、31年度単年度という気持ちでやっていきたいということでご理解いただきたい。

◎ 9番（奥森 由治）

ちょっと細かいことをお聞きいたします。和解金、3億6,000万、8,000万ですか、あるわけですが、テールアルメの擁壁対策については1億8,000万ぐらいで全額認めていただけない、50%のことやという理解をしているんですけども、まず一つ、この今までに支出した費用ありますね、調査費用とか用地取得とか言うてテールアルメに関係する裁判に関係した金で支出した分ありますね。でもこの分の取り扱いはどうなるのかと。支出したものは各町村が負担とした分だけ一旦返ってくるのかということをお聞きをいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

今のご質問の内容、結論から言いますと等に入っております。当然、立て替えた分があります。これはここで基金の設置をご承認いただきますと全額入りますが、そうして入ったところに今度は計算して、そういう立て替えたここから繰り出して、そして収入に充てて、そして還付金にするのかどうかを繰り出してやるという予算をまたご承認いただく。そういう行為を取るのとは等がつくということでご理解いただきたい。

◎ 議長（杉岡 義信）

奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

設計もテールアルメの擁壁の補修工事というのですか、工事をするについては1億8,000万認めていただいていますけども、もしあのままの状態ですとすれば半分しか、材料も再利用とかということによって実際そんなことができるのかどうか、難しいのじゃないかと。テールアルメのストリップ材をユンボで回収をした時に、全て材料がそんな50%使えるだけ回収できるのかという問題が起こってきたら、これ設計をしたら、2億かかりますと。やり直すとしたら。そしたら2,000万か3,000万、金足らんってことになるからね。この辺のことはどういうふうにするのかお伺いをいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

お答えさせていただきます。先ほど一般質問でもお答えさせていただきました。この裁判にするこの基礎的な内容とか、やっぱり専門の大学教授もやっていただきました。そういった指導のもとに考えていきたい。そういった指導のもとにもコンサルとの協議をしていきたい。そういったこと、十分踏まえまして進めていきたいというふうに思っております。むしろやはり私たちは安全で経済的で住民の信頼を得られると、こういうことに向けて当面は進めていく。その絶対起これないのかいう「絶対視」というのはありませんが、「絶対視」の中にも大きな協議事項にもなると思っております。しかし私どもは一応事務的に進めていく中ではいろいろな手法があると、このように聞いております。まずそのよ

うな方向で進めていく、このように思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

3回目です。その1億8,000万の費用を見ていただいておりますけども、和解金ですね、それ以上にかかったものは、今の答弁ですとかからないような新たな候補があるのか、わかりませんが、予算の範囲、基金に積み立ててある範囲の中で対策を講じるという理解でいいのか、いやいや設計すると2億かかりましたからという話になっちゃうとこれまた出さんなんということになりますので、予算の範囲で基本的には予算の範囲ですか、基金の範囲で処理をしたいというのか確認ですね。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

すみません、和解をいただいている内容の範囲内で、すべてその基礎の範囲内で考えていただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

廣尾君。

◎ 11番（廣尾 正男）

この和解については長い間ご苦労されまして、非常に和解になったということでありがたいと思いますが、まず和解になったときに考えていかなあかんのは和解になってきたらどうするかという、その計画性についてちょっと連合長お願いします。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

これまた、重なって恐縮ですけれども、和解の内容の主は、やっぱり安全対策、危険だったから何とかしなさい、ということでこれやっぱりきちっとしなければならぬ。これを速やかにかからなきゃならぬ。そうことでは、先ほど申し上げましたように、まずどこ

どこのコンサル頼みますよと、こういうわけにはいきませんので。この裁判のときに根拠になっている、また大学の教授にご指導いただきまして、そういう人たちとも協議して、その延長上の中でどうしていくべきか、というのは、それは先ほど話に速やかに、一日も早いこと、かかっていきたい。そういつて早いことコンサルティングにかけながら早く安全策を、工事着手したいと。先ほど申しあげましたように目標としては、単年度で完成するような状況で進めていく、そういう意気込みでやらせていただきたい。これは一にも二にも。このまま放っておくと、これもし何か起こったときの責任は全部責任が問われるわけですから、早いとこ責任を果たすというか、それで取れるような形をとっていかないといけないということで、先ほど言ったように速やかということでご理解いただきたいと思います。1日も早いことやって、予算もとおりますとね、それにかかりたい、このように思っております。

◎ 議長（杉岡 義信）

廣尾君。

◎ 11番（廣尾 正男）

それと、「等」でですね、まだ積み残したような作業があるのかな。そこら辺ちょっと教えてください。

◎ 議長（杉岡 義信）

もう一回。

◎ 11番（廣尾 正男）

「等」ということはクリーンセンター等でありますね、クリーンセンター等というのは道路も踏まえて、道路が今、全部安全対策がちゃんとできているのかどうか。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

「等」が、確かに広い意味があります。これは、いろんな基金。この趣旨は今回の擁壁裁判の和解の内容を中心として物事を考えていきたいと思っております。もしそういうようなものが順次、値する準じるような内容であれば当然こういったことから考えていくこともありますが、当然、そういった時は、こういった議会で議論してもらってですね、これ繰り出しするときに繰り出しの内容と基金を潰して繰り出してそれを収入して支出という議論をしていただきますので、その辺のところではひとつ皆さん方と十分話し合いをして

いきたいと。このように思いますので。というのは「等」というのは何が起こって、ちょっと細かいことこれからも先ほど住民と慎重に、真摯に話し合っ、やっぱり安全策をとるという中で、どういう内容が出てくるかというものはっきりとはなしに、やっぱり住民と信頼できる形を取っていきたいと思っていますしね、和解の内容というのは重いものだと思いますので、そういったことも踏まえながら十分議員の皆様と予算支出に当たっては協議していきたいというふうに。と予算の執行にあたっては協議すると思いますので、ちょっとその中の「等」だということでご理解いただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

廣尾君。

◎ 11番（廣尾 正男）

3回目で大変申しわけないですけど、これ一応、和解されたらどういうふうにして今後その予算を、安全対策をどうするかというのを今後、計画をちゃんとしていただかないと具合悪いと思います。それと和東の方々にはいろいろご迷惑をかけてね、道路の関係についてもいろいろご迷惑をかけたと思います。せやから早急にね、そこのごみ処理のする道路ですね、皆さん方に迷惑をかけて、まだ積み残しがあるようでしたらね、早急にそういうところら辺も踏まえて、計画をしていきたいと思いますのでその辺をお願いしたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ありがとうございます。当然こちらで先ほど申し上げましたように議論をさせていただく前に私たち連合長、副連合長、十分この辺のところは協議しながら内容を吟味、吟味というんですか、いろいろ確認して、そうやってこれだったということで提案させていただきたい。そういう意味では当然これは、非常に難しい町固有のものもあれば、このごみにかかわる問題があると。こういったところを中心に議論していく必要があるかと思えます。その辺はまた私たちこの連合長、副連合長と十分に協議させていただきながら、進めてまいりたいとこのように思っておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

2番、西岡です。ちょっと確認の意味でしておきたいんですけども、第3条ですね、これの2項に「基金に属する現金は必要に応じ、もっとも确实かつ有利な有価証券に換えることができる」という項目が入っておりますが、これはどういう趣旨で入っているのか、これは必要ないんじゃないかなと私は思うんですけども、これはどういう意味で入っているのか。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

一番大事なこの基金というのは、これは全て公金がそうですけども、安全策で管理運営しなければならないということになっております。これ、もちろん基金設置条例は準則に基づいてやっていると思いますので、全てこうした言い方をしておりますので、だからと行ってこれを行使するかと言うことは全て行使するかで安全策を講じる方法で保管していくと。今、私どもが和東町も笠置町も南山城村もやられている範疇内で処理するというふうにご理解いただいたらありがたいんじゃないかなというふうに思っております。一応書くのは準則どおりに書かせてもらいたい。準則において提案させていただくと。

◎ 議長（杉岡 義信）

西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

私が質問したのは、この基金はせっかく和解ができて運用していくんやから、确实でも第1項だけでいいんじゃないかなと思います。これ、有価証券に換えるということは今、国でもいろいろなことで問題が出ていますけども、株式に手を入れたりね、そういうことをしたらあかんと思うので、こんな必要ないんじゃないかなと私は思うんで質問したんですけど、実際、せえへんとは言ってはるけど、これ条例でこれがオッケーになったら、これ必要に応じてできるということやからね。そこをどういう答弁ですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

先ほど、今ご質問のように内容については準則に従って、それで入れさせていただいたと言いますが、今のご質問は、そんなもん今、有価証券使たら不安定なそんないろんな

ひっくりかえったらそなん使てないねんやったら、省いてしもうたらいいんやないかと、こういう思いであります、これはどういう背景でどうなってくるかわかりませんので、一応その時の内容として入れといて、行使する場合には安全策で、今先ほど言いましたようにどこの町村もとっている範疇内でやってきている。財政というのはどういう状況に変わるかわかりませんので、いろいろなあらゆる方法は取れますよという形をとっておいて、そうして一番安心、安全策を行使するというご理解いただいたら、僕はいいと思います。今のご時世で言われた話ですが、どういう状況に変わるかわからないときに、何でそれを使ったら逆にこういう策を入れてないねやと、逆の意見もあると思いますので、一応範囲は広いですが、行使は西岡議員の言われている内容の趣旨を十分の中で管理運営していきたい。このように思いますのでご理解よろしく願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。岡田君。

◎ 10番（岡田 勇）

議長、初めに議事質問は3回ということでおっしゃってますので、それにはなかなか難しい、質問を長らく言わないといけないですけどね、一つ一つ言いたいですけど、今、西岡さんのことをちょっと例で言いますとね、町長は安全策でどういう状態が起こるかわからんから有価証券に換える。安全策というのはどうなの。その金、誰かが使うの。そうじゃなくてそなんおかしいんじゃないですか。こんなん別に基金にしなくてもいいんじゃないですか。私はそう思いますよ。まずこれね。安全策、どういう状況でどんな状況か、これもちょっと教えてほしいです。まずこれ1問目言います。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

安全策とすれば、一番有利とか、そのときは安定した、そして金額の保持に、安全対策というすべてこういう形で言うておりますので、いわゆるやっぱり基金としては大事に趣旨で設置するわけですから、その核を守り、そして維持していこうというのが趣旨であろうかなというふうに思います。そういう意味でちょっと全てこういう意味の書き方をするわけなんです、その時の私の答弁もどこの町村のどこの基金条例にも設けておられる内容からはずれているわけではないので、足りないところはよそと同じ内容で理解しておるということをご理解をいただきたい。連合だけ変わった言い方をしてない。変わったとり方をしていない。どこともとられている内容でその範疇内でこのことは理解しているということをご理解いただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡田君。

◎ 10番（岡田 勇）

この問題で、2問、3問続けなくてははいけないし非常に苦しいです。質問する方は。どこの市町村でも基金条例をつくる場合はこういう条文を入れなくてはならないということは、うたってあるんですか。削除したかって別にいいんじゃないですか。どこの町村でも基金条例をつくる場合は、全部こうやってうたってあるからしますということでしょ。我々で言うたらさっきの質問やないけど、どういう状況なのか、だからそれを安全にするためには銀行さんで預けてたらあかんとかとれへんですね。もしくは有価証券に換えたら何か換えられるのかどうかというのしかとれへんですけどね。条例の市町村にそういう法律じゃないけど、決まりがあるのかどうか、これ私ではわかりません。そちら側でしか。その点どうですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

先ほど申し上げました内容は一応、示されているんですが、いろんな国の方にも準則というような言葉で言いましたですけども、それに従って入れさせていただきました。こういうふうに書かせていただいたということでもあります。どこでもやってるのかと。そういうふうには準則全部従いなさいという拘束力はありません。だからそれぞれのところでありますから、これ自由であります。しかし今回の場合はこういう準則に従って提案させていただいたということをご理解いただきたいと。こういうことでもあります。だから銀行へは預けたらあかんのかとこういうことなんですけども、そういう銀行へ預けるのもこれはそういう策の中の一つであるわけですね。だからそういう皆含まって一番いい方法、そうやって一番妥当な方法をとると。こういうことをご理解いただきたいと思います。この情勢というのは非常に変わります。低利子の今日のような時もありますし、また利子の高いところもありましょうし、また国債とかいろいろな面がまたありましょうし、いろいろなときの状況が変わりますから、こういう内容がどこも準則でうたわれていると思います。確かに長い目で見たら私、今、申し上げた答弁になりますけれども1年、2年やったら何もそんなことないんやから、西岡さんが言われる内容でも私はいいのかなと思います、一応こういうふうにとらせていただいたということで、先ほど西岡議員にもご理解をお願いしたいということを申し上げます。当然、西岡さんが申されたような一番安全策で一番高い、一番できるような方法をとるべきじゃないかということは十分踏まえながら行使して

いくという答弁させていただきましたので、同じ内容だと思っておりますので、ひとつ岡田議員の方もひとつご理解いただきたいと思えます。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡田君。

◎ 10番（岡田 勇）

理解できません。準則というそういう文書がそれは我々に示してください。こういうことが基金を持ったらこういうことで国で決まっている。もしくは表示しています。文面で言葉使いただけではね、そうしてもらっても全然わからんですけど、だからしっかりとそれは事務局からね、基金する時はこういうことが決まりですという準則、文面か何かあったら出してください。そうでないと言葉だけで連合長言うてはったかって金利が高いどうかかなんとかそんな問題じゃないんですよ。これはこれから本題に入りますけれども、まずこの裁判で一応和解をした。私は和解の時は、いろいろなことを申し上げて賛成しました。しかしこれは5年、10年かけてするようなことじゃないんですよ。住民の声は安全・安心にしてください。これは私も20年前から、あの擁壁そのものが工事を着工したらある程度時期が来て傾きかかったんですよ。あっそこから既にこの話は始まっている。だからそれをずっと言い続けてきたのは、あの擁壁は倒れたら危険があるからどうするんだと。これが目的です。だから裁判では要するにこれを直したい。だからこの責任はどこにあるのかということ議論されたんです。それが20年かかったんですよ。しかしその20年間の間にね、私は計画的にやはり考えたら倒れたらどうなるんだ。被害がどうなるのかということシミュレーションされたことはありますか。恐らくないでしょう。今の日本の土木技術やったらシミュレーション、よくテレビに出ていますね。いろいろな想像して、こうなったらなんか出てくるでしょう。そういうことをされたことはあるのか。それでないと1億8,000万という工事費がどういう形の工事をしてたのか。こういうことなんです。すでに裁判のどこに書いてあるんですよ。1億8,000万かかりますよ。テールアルメの対策工事、これは誰が設計したの、誰が決めたの。そういうことなんか既にはじめにわかっていることなんです。だから今止まりが来て、これから5年、10年かかるんじゃないんですよ。ここまできた20年の経緯、これが一番大事なこと経過が。だからここまで来るまでに想定をしながらこれはこうなったらどうするんや、これどうするねんということが、ここで終わった時点で既にかかるのがこれが常識ですよ。今から考えます。住民の声を聞きます。一丁目一番地行く前に時間がかかり過ぎです。3年も前に1、2、3、対策委員会作りましたね。そのときでも作ったらいいんです。既に。住民の契約が20年間、だからこれは終わります。2番目は緊急避難します。3番目は西部地区に行きます。これはそんでよろしい。しかし、倒れた場合の話は一遍もされていません。それは私非常に悔しい。この話ができた既にもう着手しますと、住民の安心、安全を守るためには、こ

の工事かかります。だから基金をこうして当てます。これはこんでよろしい。執行させてください。施工させてくださいと言うのは、これだったらわかりますよ。今から考えて設計屋に聞かなあかん。専門家に大学の先生と協議せなあかん。そういうちやちな話をね、することもおかしいんですよ。専門家の大学の先生にこれ倒れたらどうなるんですか。どういう被害が起こるんですかというシミュレーションしてもらったこと、あるんですか。そうしてこそその行政の責任なんですよ。私いつも言っているでしょう。たまたま地震がなかったからこれ、被害がなかったと。これはあつたらどうするんですか。何年も前に連合長3人でね、私言ってるんですよ。なつたら誰が責任取るの、孫の末代までその責任は取れるのか。それだったら保証人、補償を書いてくださいと何回も私は言うてますよ。たまたま地震がなかったからこうなつたんですよ。だから地震があつた時、倒れた時の状況、そのシミュレーション、擁壁が倒れた場合にどういう状況が起こつたのかということはこの辺できてますか。それを答えてもらってください。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡田君。

◎ 10番（岡田 勇）

はい。

◎ 議長（杉岡 義信）

3回です。答弁でまた次変わります。

◎ 10番（岡田 勇）

いや誰か。なかつたらどうするの。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

岡田議員のご質問ですけれども、内容の趣旨は安全策を取らなければいけない。それは速やかにやらないといけない。これは私も同じことであり、その努力はやっていかならない。その中で滑った場合のどないするねんというシミュレーションまでというのはいいのか悪いのか別として、あれが滑ると大変や。山の下は、田畑もありますから、シミュレーションを待つまでもなく大変なことになるということ。民家がないということでありますが、農地の作業場がありますから、やっぱりそれは速やかにしなきゃならんという前提に立って今やろうとしております。とにかく内容そのものについての言うておられる内容

については、早くから危ないところを直せ、責任を取られるぞと。やっているものの責任だと。当然のことですので、その質問の趣旨というのをだいぶ重きに置きながらですね、これからあたっていきたい。このように思っておりますので、ひとつご理解よろしくをお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑君。

◎ 7番（畑 武志）

今回提案いただいた安全対策基金条例、これは和解金が入ってきましたよと。だから工事かかるまで一時、基金で積み立てるということですね。そしたら問題ないんですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

お答えいたします。今、畑議員が言われたとおり和解で入ってきた。これ一般にしてしてもたらなくなってしまふから、きちっとこの内容の趣旨を生かすためにもですね、ちょっと基金を設けて、そうして使い方を明らかにしてやっておこうというのがこの趣旨でありますので、今問題ないのちがいますか、私もこれはだんだんこれが一番適切な方だというふうに理解して今回提案をさせていただいたということです。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡田君。

◎ 10番（岡田 勇）

畑議員、ありがとうございます。私が言いたいことは、要はね、今、倒れかかっているやつを直したらそんでいいやと。たしかに倒れるか倒れないかはこれわからないですわね。しかし倒れた場合の何回も言いますがシミュレーションをされたことはあるんですか。あの擁壁が倒れたシミュレーションは建物にまで行きますよということです。その建物が倒れたらどうするんですか。これ一番大事なところです。あの建物が倒れば要するにあの煙突が倒れたらダイオキシンまで全部飛び散るんですよ。すべてみな。そういうときに風評被害で和東町潰れるかわからん。全部、言うたらお茶のとも飛ぶでしょう。隣の町も飛ぶですよ。そういうことも考えてやってほしいという意味ですよ。擁壁だけが潰れてたら直したらええねん。これは誰でも考えます。だから擁壁が潰れたときに倒れる時には建物も影響しますよと、私は言うてるんですよ。そういうことを考えないで倒れたら直した

らいいんじゃないくて、もしくは万が一明日地震が起きて倒れた場合、誰が責任を取るの。そういうことも考えて、計画というのはそこなんですよ。連合長。そういうことを考えやんとね、ただ直したらええやん、直したらええやん、そんでいいやんというのは絶対だめですよ。それによる影響、影響がどこまでいくのかというそういうことを想定しながらやるのがこれは行政の力ですよ。だから私が言いたいのはそこまでやってほしいということ早く、早く着手する。お金は3年も4年もかかって使うのではなくて、今年からでも既に設計でもして、私はしてあると思ってたんですよ。既に2年ほど前から。何でかという計算オーバー、1億8,000万の計算をしてある根拠をあらなできません。直す設計を1億8,000万か1億7,000万書いてあるんです。これの根拠は何やと。単なる図上でしているだけです。それではだめなんです。実際どうなのかという既に、今から設計を頼んでいろいろ大学の先生に聞いてやると、こんな馬鹿げた話はないんです。それはやる気ないんですよ。責任ですよ。もう2年、3年、検討委員会からそこから既に始まってきてるけども、擁壁の倒れる状況については20年前から始まってきている。こういう想定を私はするのが責任なんです。それをやってほしかったんです。だから私は20年間ずっと訴えてきてますね。連合長に「こけたらどうすんや」たまたま今ないだけのこやんかと。明日にはわからへん。こういうことなんです。連合長、そういうことでもっと前向きに話をお願いしたいんです。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

今、岡田議員から2点の問題をいただき。1点目ではありますが、それが崩れたら建物まで及ぼすと、そういうこと想定したことがあるのかと。こういうものであります。当然こういったものについては早くから想定というよりもどうなのかということ業者ともいろいろなところで、これは向き合ってまいりました。当然のことです。今詳しく申し上げますと、テールアルメ擁壁がもっと基礎をきちっとしといたらこんなもん起こらないのではないか。何でその基礎をきちっとしなかってん。ということで日立に言った。日立が責任持って責任施工やっていると自分のところはきちっとボーリングして、ちゃんと調査してやってるやないかと。あれが滑っても自分とこの館は滑らんようなかたちで設計してるやないかと。それがわかってるんやったらなんでこれしないんやというのが訴訟の一つの争点にしております。ということは今言われたように裁判当初からですね、あの問題については一応建物は今言われるように引っ張っていく。私たちは引っ張っていくというふうに申し上げてた。ところがあの時の申し上げていく裁判の初期の部分、当初からですね、申し上げたけども、あれは自分のところも、岡田議員も知ってはるようにボーリングして何ぼもしてついてるんですよ。地下の岩の岩に。だからそれだったらこの基礎でもや

らんかいなというのが一つの争点にしておりました。そやけども今言われたように何が起こるかかわらんということで、これだけやないけども、やっぱりそれはそういうように思ってきたけども、十分それは今言われるように、検討していくのは大事だというふうに思っております。それと2点目は、しゃべってるうちに2点目は忘れたけど。それちょっと頭だけ言うて。

◎10番(岡田 勇)

私もわからんわ。

◎ 広域連合長(堀 忠雄)

そしたら2点お互いわからないようで。

◎ 議長(杉岡 義信)

また次質問してくれるか。

◎ 広域連合長(堀 忠雄)

次質問をあげて、ちょっとこっちょっと熱が入り過ぎて、岡田議員、あんまりそっちに熱、こっちの方に熱が入って、申しわけないですけど、もう一回それ、ちょっと付け加えてよろしくをお願いします。

◎ 議長(杉岡 義信)

岡田君。

◎10番(岡田 勇)

連合長といつも議論したら、すぐにぶわーっとくるからね、こちらもそれに負けてしまいます。

◎ 議長(杉岡 義信)

連合長。質問の内容メモしといて。

◎10番(岡田 勇)

だけど私が言いたいのは、今これ、ここまで来たからこれ非常に皆さん努力はありがたいけども、これから進めるのは、2年も3年も前にシミュレーションしてるのが当然やでと。設計すら、その当時に1億7,000万かかるという設計をしてあるんですよ。だからその当時でも既にこの施工はどうすんねんということをわかってるはずなんですよ。だから1億8,000万でてきてるんですよ。今はもう確実に住民の意見を聞きながらすぐ

に施工、明日でも設計しなくても私はできていると思ってた。だけど今議論するのはこんな遅い。本来、言うたら。それを早くやってくださいと、それとね、いろんな住民の方の残しがあるとおっしゃってますけども、その残しとは何ぞやと聞きたい。残しとは何が残されたの。そういうことひとつ聞きたいことと、それから2年も、3年も前にこういうことをやっていただいでて、やってないということですね。それから擁壁の金額も全て何十年も前にできてるのに今さら議論する必要もない。そんな議論してる間もないのどちがいますか。一つは明日、万が一地震が起きたらどうするんですか。地震が起きた時には建物が倒れない保証が大学の先生がはっきり文面で書いて出してください。言葉では説明されてもこういう地震、例えば7.5、8.0の地震が生じた場合には、建物まではいきません。大丈夫ですという証明をしてくれるような文章を出してください。そしたら安心安全します。言葉だけでは絶対だめです。そういうことをお願いします。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

先ほど抜けてて申しわけございません。第1問目ですが。もう3年前に設計できてるやないかと。そんなもんこうやって言うてるから金額が出てあるんじゃないかと。まさにそういう質問でした。3年前からやっているのは訴訟に言う、損害賠償金額の基礎的な数値をやっております。これは建設をしていくための設計じゃなしに損害賠償額を求める、損害金額を出してきてました。そういうことをご理解いただきたい。そうやって損害金出ましたから、実際やろうということがいろいろはっきりしたわけですから、それに基づいて今これからやろうと、速やかにやろうというのが今であります。それともう一つ2点目ありますが、残事業と言われました。残事業というよりも、もうご案内のとおり、一番当初の訴訟で岡田議員もご存知だと思いますが、こんな反対してるところは道路は通さんと、もう通さないということやから撰原区を通らせてもらってですね、違うところ入っているのが現状です。20年間はその地域そのものはもう通っておりません。ちょっとようやく信頼していただいて職員の車とか、いろいろ必要な時には通していただきました。基本的に車は、撰原区を通過して広く道つけましたですね。あそこから通って、山通って迂回しております。あれが道路です。しかし当時から和東町は訴訟してもう通さんという話になりましたから、手がつかなかったですけども、やっぱり和東町はやっぱり北部幹線、南部幹線という、ご案内のとおり道路計画がありました。そういう中で実施していきましようというのは今止まっております。ちょうど撰原区の真ん中で止まっていますね。だからそういうことで今撰原区も声がありますし、下島区も声をあげておられます。これはやっぱりこのまま放っとくというわけにはいかない。すぐできる、できないは町の財政状況とかいろんなことをやりますが、やっぱりこの辺のところにつけて、目を向けて大きな課題と

して、これから取り組んでいくというのが一つあります。これが一つ言うならばそういうことをやるというてやらんと放ってしままだに置いておるのは、そういう問題があると。これ一つ代表的なことだけ申し上げておきます。それと地震、いろいろなシュミレーションとか、そのことを証明というのは、いろいろなことをこれはこれから速やかにする中で大学の教授なり、またコンサルなり必要やったらいろんなコンサルにまたそんなことを聞きながら、早くこういうことを進めていきたい。このように思っております。これはもう当然いろいろな証明が必要であればとる場合もありますが、必要なければ、それで場合もありますが、いずれにいたしましても岡田議員も言うておられますように、安全策を早くとらないとあかんというところは一致しておりますので、それに向けて努力していきたいということでご理解いただきたいと思えます。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡田君。

◎ 10番（岡田 勇）

議論はまだまだ続くんですけど、一定数、時間がかかっておりますのでこれで最後にしますけども、残の解決、残事業は残っているからという地元に対しての話がありますね。これが解決できるのかできないのか。元々から下島地区は反対だったと、そのために行く進入路も撰原を通して、非常に苦しいことをされてきています。その辺がネックですか。私はそれはどうももう少し道をしっかりと通る道をもっと最初に考えるべきだと思うんですよ。これは反省です。みんなが反省するべきだと思います。だから結局は、言わはるお金がないから、予算がないから直せない。だから裁判にして、勝って、それを使いたい。こういう手法でこられました。しかし私ずっと前から言うてるように、予算がなかったもこれは住民を守るためにやらないかと何回も言うてますね。それはできないとおっしゃってました。それは執行者の側の考えですけど、私が執行者だったら、予算があってもなかつても直すことがまず先やと、それを直したら住民の人から理解してもらって、再稼動できるかもわからない。そういうことを思ったんですけども、これは凶らずも手法が違うから、これは当然、今日まできました。しかし同じようなことを繰り返したらだめなんです。いち早くやっばり住民の安全、安心を守るためにそういうことを私はやってほしい。答えはいりませんよ。だからこれはこれで賛成いたしますけども、できたらやっばり早く、前に言いました早くスピーディに物事を進めてくださいと。この後の歳とった人の勘定するんやなくて、前へ進む前へ進むことを考えてほしいというのが私の願いでありますから、どうぞそういうことで連合長、副連合長、お三名おられますので、お願いをしたいと思います。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。藤井君。

◎ 4番（藤井 清隆）

道の話が出ていますので、一言申し上げたいと思います。やはり先ほども出ていますように、道路に関しましてはですね、撰原区の方を通る時に最初の約束ということでですね、されたわけで、もう毎年道路の拡幅の要求と言うのは出してまして、金がないということで、ずっと遅れてきたんですけども、今回ですね一応、契約終了ということで、是非ですね、是非というか、直ちにですね、取り組んでいただきたいということですね。その辺の決意ですね。擁壁等という安全対策と言って基金ですよ。それは安全対策に係るのか、あるいは今言われるように、積み残しの事業ですね、そこら辺のところ、使えるものなのかどうかということですね。いずれにしても見通しですよ。やはりそれをですね、早急にですね、かかっていたきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

今の藤井議員からのご質問にお答えさせていただきたいと思います。結論から、今言われる北部幹線とか南部幹線とか計画を得ているものには使えません。これは関係ないことであります。それは前からの違うところの中でどうしたら有効利用できるのかということを考えていくこともあろうかと思っておりますので、多分、藤井議員はちょうど長井のここを上がってあの続きのところにこれ使えるのかと言うておられると思いますが、これちょっと使えないということでご理解いただきたい。これは別の町道整備とかいろいろなどころの施策の中で努力していただきたい。このように思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

藤井君。

◎ 4番（藤井 清隆）

努力努力と言われましても明確にやはり示していただきたいということですよ。町中原山の方の工事結構だいぶ完成してきますので、やはりここ1年、2年の間にはですね、取り組んでいただくということを明言していただきたいですけど、いかがですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ちょっとね、今の施策のことはちょっと連合の中での協議はないんですね。だから町の方でやる計画の話ですので、それはそこでまた町の考えを申し上げますので、ご理解いただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

副連合長。

◎ 副広域連合長（手仲 圓容）

議員の皆さんにも申し上げますし、議長にも申し上げたいと思いますが、これ、今基金条例ですので、裁判のお金が一般会計の30年度の予算に入ってしまったんです。これがもう3月いっぱいでもう使えなくなりますので、入れるポケットを今お願いしているんです。で、そのポケットにとりあえず30年度の予算を出して入れておいて31年度でそれをどう使うかという話をこれからするんです。ですからそのお金は今やっているのはどう使うねんという話はこのお金を金額が出てきた時に議論になるわけであって、今回はそのポケットを作ることがええか悪いかという議論にしていきたい。でないとお金を使う話をされていますけれども、時系列がもうちょっと後になりますので、とりあえず入ったお金をポケットに入れることの条例をつくりたい。それがええんか悪いかという議論にしていきたいなというふうに思いますので、議長よろしく願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

皆さん、お聞きのとおりです。ちょっと脱線した経過がありますので、藤井議員におかれましては、確約せいでいうやつはまた新たにしてください。ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

これで質疑を終結いたします。これから討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

討論なしと認めます。これで討論を終結いたします。これより、採決します。議案第1号、相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例制定の件は、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

(全員挙手)

◎ 議長（杉岡 義信）

挙手全員です。したがって、議案第1号、相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金条例制定の件については原案のとおり可決されました。この際、暫時休憩いたします。この時計で13時5分再開します。

(休憩 12:05～13:01)

◎ 議長（杉岡 義信）

時間がちょっと早いですけど、皆さんの声が早くせよという声がありましたので、休憩前に引き続き、再開します。日程第6、議案第2号、相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の件についてを議題といたします。提案理由の説明を求めます。堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の件についてご提案申し上げます。障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第15条に規定する相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会の委員の定数を、審査会委員の負担軽減のため、15人以内を18人以内に改正するものでございます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

続いて、議案の説明を求めます。総務課長。

◎ 総務課長（市田 精志）

失礼いたします。それでは、議案第2号、相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例案につきまして、ご説明を申し上げます。議案書の2枚目が改正案、3枚目が新旧対照表となっております。3枚目の新旧対照表によりご説明いたします。表の左側でございますが、現行条例では審査会の委員の定数を第1条で障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）の規定により、設置する相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会（以下「審査会」という。）の委員の定数は15人以内とすると定めておりますものを、右の改正案のとおり18人以内とするに改めるものでございます。本審査会につきましては、構成3町村からの認定申請に基づきまして、障害程度区分の審査及び判定を

行うものでございますが、関連性が深いことから介護保険制度によります京都府の介護保険認定審査会と連携し運営をしているものでございます。両審査会で医療関係者の委員につきましては、相互で兼任をいただいているところでありまして、審査会の開催には2名の医療関係委員の出席を必要としているところでございます。しかしながら、多忙な医療関係機関の委員の負担が大きく、審査会の日程調整を行うのも困難な状況となっておりますので、医療関係機関からの委員数を3名増やしまして、審査会の円滑な運営を図るものでございます。以上、簡単ではございますが、議案の説明を終わらせていただきます。よろしく願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

これから、質疑を行います。質疑はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

質疑なしと認めます。これで質疑を終結いたします。これから、討論を行います。討論はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

討論なしと認めます。これで討論を終結いたします。これより、採決します。議案第2号、相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の件について、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（全員挙手）

◎ 議長（杉岡 義信）

挙手全員です。したがって、議案第2号、相楽東部広域連合障害者介護給付費等支給認定審査会委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の件については、原案のとおり可決されました。日程第7、議案第3号、平成30年度相楽東部広域連合一般会計補正予算（第3号）についてを議題といたします。提案理由の説明を求めます。堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

平成30年度相楽東部広域連合一般会計補正予算（第3号）についてご提案を申し上げます。歳入歳出予算の総額、9億5,823万8,000円に、歳入歳出それぞれ3億6,

708万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ13億2,532万5,000円とするものでございます。今回の補正は、先ほどのテールアルメ擁壁裁判和解金の受け入れと基金への積み立て、さらに不燃物ごみの処理に要する経費の増加及び笠置中学校スクールバス運行の委託に要する経費等について補正をお願いするものでございます。よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

続いて、議案の説明を求めます。総務課長。

◎ 総務課長（市田 精志）

議案第3号、平成30年度相楽東部広域連合一般会計補正予算（第3号）につきましてご説明申し上げます。それでは、予算書の1ページをご覧ください。先ほど連合長の提案理由でもございましたが、今回の補正は第1条のとおり歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3億6,708万7,000円を追加いたしまして、歳入歳出それぞれ13億2,532万5,000円とするものでございます。まず、歳入からご説明いたします。予算書の11ページ、12ページになりますが、そちらをお願いいたします。各町村からの負担金で補正額117万4,000円、衛生費での歳出に係る分担金として743万9,000円を追加しております。なお、町村ごとの内訳につきましては、12ページの説明欄に記載のとおりでございます。次に第8款、諸収入の雑入で、テールアルメ裁判の和解金の受け入れを行うものでございますが、既に弁護士費用等を差し引いた金額3億5,847万4,000円の計上となっております。また、予算書とあわせてお配りをしておりますA3版の補正予算資料、こちらの方の1ページにも対応する歳出科目ごとの内訳を掲載しているところでございます。続きまして、歳出でございますが、予算書の13ページ以降になります。資料の方では3ページ、4ページに詳細な内訳を掲載しております。この中で各予算科目のうち、19節の負担金、補助及び交付金に計上しておりますものは、昨年の人事院勧告などによりまして構成町村からの派遣職員に係る人件費が増減したものでございます。その他の部分につきましてご説明申し上げます。予算書の方でまず2款、総務費、1項、総務管理費、4目、財政管理費で、「相楽東部クリーンセンター擁壁等安全対策基金」への積立金3億5,847万4,000円を計上しております。財源はテールアルメ裁判和解金でございます。続きまして、4款、衛生費、2項、清掃費、2目、塵芥処理費では、粗大など不燃ごみの増加に伴う、埋め立て並びに残渣等の運搬処理費として委託料743万9,000円を増額するものでございます。次に、5款、教育費の3項、中学校費、1目、笠置中学校管理費は、補正額では3万8,000円の減額となっておりますが、派遣職員の人件費を除いた部分で、笠置中学校スクールバスの運転手が約1か月間ケガにより欠勤した間、代替の運転業務を委託した関係でスクールバス運行委託料に不足が生じますので、13節、委託料にて62万3,000円を計上しております。以上、簡

単ではございますが、補正予算の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

それでは、衛生費の関係で2点ほどお聞きしたいと思います。1つは、これは12月の和束町の議会の方でも質問した件があるのですが、今、3月末でクリーンセンターが休止になるということで、住民の方もいろいろと今後のごみ処理についてどうなるのだろうかというような話題も出ております。その中で、この間、地域の中では、粗大ごみの処理について有料化になるのではないかというような話が広まっているというか、という状況がございました。12月議会の和束町の議会として堀町長に伺ったところでは、そういう有料化等の方針はないということで聞いてはおりますけれども、直接このごみ処理にかかわる連合ですので、連合としてもその辺についての確認をさせていただきたいと思うのですが、そこは担当課の方でも結構ですし、連合長でも結構ですが、答弁いただきたいと思っております。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

今、岡本議員様のご質問にお答えさせていただきたいと思っております。今、連合につきましては、粗大ごみの分についての委託についても民間委託を検討しておりますが、これについて民間委託になることによって粗大ごみが有料化するというようなことは、今、現在考えておりませんので、今までどおりの出し方で処理を行うという形で考えております。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

そこは、現在のところということではありますが、民間委託に伴うごみ処理の先が変わることによって、粗大ごみの有料化はないということで確認しておきたいと思っております。それで、委員会の報告にもありましたが、ただ、粗大ごみが大変増えているというご報告がありました。それは今、そういった有料化になるのではないかというふうなうわさが広

がる中で、早く出した方がいいんじゃないかというような、そういった心理もあったのかもしれないのですが、それだけじゃなくて、やはりそういった増えている原因というのを一応分析もされていると思いますので、その辺、もしわかりましたら説明いただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

詳細なところにつきましては、各町村のごみの出方、まだそれぞれ集計できておりませんので、具体的なところはまた検討させていただきたいところでございますが、特に増えているのは南山城村と和東町の方が粗大ごみが多くなってきているというところはございます。あと、これにつきましては、各行政の方からの粗大ごみの引き取りの依頼等もありまして、増えているのが大きな現状かと思えます。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

また、今後の粗大ごみの理由等については、また本予算のところでもお聞きしたいと思いますけども、あと1点、いわゆる今、回収していただいているごみの中で、カセットコンロなどで使っているガスボンベというのがありますね。こういうスプレー的なやつですけども。そういったものについて、この間いわゆる事故がニュースでありまして、それがいわゆる充満してそれが爆発というか、そういった形で事故になったというニュースが流れました。それをきっかけに各自治体でどのようなこのガスボンベについて処理をしているかということが一定流れたわけですけども、東部の方ではいわゆる穴をあけるという。ガスを抜くということも含めて、穴をあけるということで住民の方がお願いをされて、その上で出していただきたいというふうにされていると思うのですが、自治体によって対応が違っているというふうにお聞きしております。先日、和東町の環境委員会の方の視察で、城南衛生管理組合の方に行かせていただいたのですが、そこではあけていないと。穴をあけずに使い切っていただいて、出していただくという方法をとっていると。なぜかという、やはり幾ら穴をあけてといっても、やはり残ってる部分もありますし、一応安全上も考えてそういう措置をとってるっていう話をされておりましたけども、その辺の今後、東部として処理について何か見直しであるとか検討されてることありましたら、ちょっと説明いただきたいと思えます。

◎ 議長（杉岡 義信）

中嶋環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

スプレー缶につきましては、3町村の中でも若干対応が異なっておりました。これにつきましては、もう2月以降については、東部クリーンセンターの方の処理委託の方の業者とも調整をしまして、今は収集の際にあけていただくということはなく回収できるということで調整をしております。これについては、また広報でもお知らせをしておりますので、その辺については、また統一していきたいなど。その他、収集全体に関しては、若干町村ごとに手法が違っておりますので、この辺については3町村の環境担当の課長等と調整しながら、手法も含めて統一化していきたいなど、こちらの方、連合の方では考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

ちょっと各連合でも3町村で対応が違ったということをちょっと今聞いて、そうだったのかというふうにちょっと今勉強不足で申しわけなかったんですけども、基本的にあけないという方向で統一したいということで、ただちょっとこちらも十分広報が行き渡っていない状況もありますので、いわゆる安全にかかわることですので、十分にさまざまな媒体を通じて広報いただけるようによろしくお願ひしたいと思います。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

これで質疑を終結いたします。これから討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

討論なしと認めます。これで討論を終結いたします。これより、採決します。議案第3号、平成30年度相楽東部広域連合一般会計補正予算（第3号）について、原案のとおり

決定することに賛成の方は挙手願います。

(全員挙手)

◎ 議長（杉岡 義信）

挙手全員です。したがって、議案第3号、平成30年度相楽東部広域連合一般会計補正予算（第3号）については原案のとおり可決されました。日程第8、議案第4号、平成31年度相楽東部広域連合一般会計予算についてを議題といたします。提案理由の説明を求めます。連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

平成31年度相楽東部広域連合一般会計予算について、ご提案申し上げます。歳入歳出予算は、歳入歳出それぞれ9億6,042万3,000円と定めるものでございます。歳入につきましては、各町村からの分担金及び負担金9億3,020万8,000円を主な財源としております。前年度予算と比較いたしますと、2,663万8,000円の増となっております。この増額となりました主な要因といたしましては、事務用パソコン端末の入れ替えのための機器購入や、一般廃棄物処理基本計画等の策定業務及び相楽東部クリーンセンター休止に伴う清掃業務委託、笠置中学校トイレ改修工事、和東町給食センター空調設備等工事などを新たに計上したことによるものでございます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

続いて、議案の説明を求めます。総務課長。

◎ 総務課長（市田 精志）

それでは、議案第4号、平成31年度相楽東部広域連合一般会計予算につきまして、ご説明をさせていただきます。まず、予算書の1ページをお願いいたします。平成31年度の当初予算につきましては、歳入歳出それぞれ9億6,042万3,000円と定めるものでございます。連合長からもございましたが、前年度、平成30年度当初予算額との比較では、2,663万8,000円、2.9%の増となっております。それでは、予算書とあわせて資料に基づきまして、前年度との比較で大きく変わった箇所を中心に、簡単にご説明をさせていただきます。まず、予算書では15ページをお願いいたします。3番の資料の方では4ページからになります。2款総務費の1項総務管理費、1目一般管理費、本年度予算額7,029万2,000円、前年度との比較では1,503万5,000円の増となっています。詳しい内訳は、予算資料の方では5ページの中ほどあたりにな

ります。特に大きな要因といたしまして、13節委託料では、その他委託料の項目におきまして、ホームページの更新作業や来年マイクロソフトのサポートが終了いたしますOSウィンドウズ7を搭載している事務用パソコンの更新作業など、また、その次の14節使用料及び賃借料でも、ユーザー数の増加に伴う財務会計システムのライセンス料や、平成31年度から導入する給与管理システムの使用料、連合内の事務用端末・サーバーなどの各種ソフトウェアの更新費用が増加しております。次に、この資料ページの一番下になりますが、18節の備品購入費につきましては、先ほど委託料のところでもご説明いたしました、マイクロソフトのサポートが終了するウィンドウズ7の事務用パソコン27台分の購入費用などによりまして、前年度から506万6,000円の増となっております。なお、特定財源といたしまして、ホームページの更新並びに事務用パソコンの更新費用に係ります、未来づくり一括交付金494万円などを充当しております。次に、予算書の21ページをお願いいたします。21ページの下段でございますが、4款衛生費の1項環境費、1目環境総務費、本年度予算額2,171万7,000円、前年度比1,066万7,000円の増となっております。要因といたしましては、予算書では次の24ページの中ほどになりますが、13節の委託料におきまして、一般廃棄物処理基本計画策定業務と地球温暖化対策実行計画策定業務を計上したことによるものでございます。また、一般廃棄物処理基本計画策定業務に係ります未来づくり一括交付金362万9,000円などを特定財源として充当しております。予算書、同じページの下段になりますが、4款衛生費の2項清掃費、1目衛生総務費、本年度予算額294万円、前年度との比較では409万5,000円の減となっておりますが、これにつきましてはクリーンセンター焼却炉の操業停止に伴いまして、13節の委託料で計上しております公害環境測定調査委託におきまして、調査項目を大幅に削減したことによるものでございます。同じく予算書23ページの一番下になりますが、2目のじんかい処理費では、本年度予算額2億4,387万5,000円、前年度との比較で3,925万9,000円の増加でございます。資料の10ページになりますが、資料10ページの中ほどからご覧いただきたいと思っております。資料10ページの中ほどからじんかい処理費になっておりますが、こちらの方で焼却炉の運転停止に伴いまして、焼却のための需用費で計上しております燃料費や医薬材料費、並びに施設運転委託料などは減少しておりますが、かわって、休止状態で施設を維持するためのメンテナンス業務委託料や、資料の方では次の11ページの上段になりますが、可燃ごみ処理業務委託料6,487万7,000円の計上や、次の項目になりますが、19節負担金、補助及び交付金でも伊賀市環境保全負担金を増加したことによりまして、トータルでは約4,000万円の増となったものでございます。続きまして、予算書25ページをお願いいたします。予算書25ページの中ほどからになりますが、3目の施設整備費では、本年度予算額663万5,000円、前年度比で1,090万6,000円の減額となっております。資料の方では、同じく11ページになりますが、13節委託料で焼却炉の停止により測定が不要となりますばいじん濃度計の点検費用や、15節工事請負費での老朽化に伴い

これまでから実施しておりました施設の修繕など、工事費の削減によるものでございます。次に、同じく予算書25ページの下段、最下段の方からは教育費になりますが、まず新規の事業といたしまして、予算書27ページをお願いいたします。27ページの下段でございますが、3目義務教育振興費では、本年度予算額が2,328万9,000円と前年度より197万円の増となっております。内容につきましては、予算書の方で30ページになりますが、13節委託料におきまして、セキュリティー対策等構築作業委託278万3,000円の計上によるものでございますが、これにつきましては教育情報セキュリティーポリシーを作成するに当たっての支援業務委託といった内容となっております。なお、特定財源といたしまして、本事業に係ります未来づくり一括交付金139万1,000円を充当しているところでございます。次に、予算書29ページ中ほどからは各小学校・各中学校費の管理費が続いてまいります。共通の項目といたしまして、先ほど総務費でもご説明をいたしました。マイクロソフトのサポートが終了いたしますウィンドウズ7の教務用のパソコン、こちらの更新費用を各科目の備品購入費で計上をしております。それでは、予算書29ページ中ほどの小学校費の1目笠置小学校管理費でございますが、本年度予算額4,498万5,000円、対前年度比で1,288万3,000円の減となっております。資料の17ページをご覧くださいませでしょうか。資料17ページ上段の方でございますが、15節の工事請負費でございます。前年度より1,743万3,000円減少しております。平成31年度も笠置小学校トイレ改修の2期工事は実施されませんが、第1期の工事よりも工事費が大幅に減少したということでございます。また、この資料の16ページ、13節の方の委託料では、一般質問の方でも出ておりましたが、空調設備工事の実施に向けた設計業務委託料といたしまして、292万3,000円が計上されておるところでございます。なお、特定財源につきましては、教職員の給食費など81万2,000円を充当しております。次に、予算書では33ページをお願いいたします。33ページ中ほどからは、2目東小学校管理費になります。東小学校管理費では、本年度予算額が5,831万4,000円、前年度比で295万4,000円の減となっております。全体的に大きく増減をした科目というのはございませんが、金額の大きいものといたしまして、予算書の36ページをお願いいたします。36ページに15節工事請負費。こちらと同じくトイレ改修工事といたしまして、3,033万6,000円を計上しております。こちら平成31年度は第2期の工事分となりますが、平成30年度第1期分予算計上させていただいておりました3,553万円からは519万4,000円の減となっております。特定財源につきましては、学童保育に係る教育施設電気使用料など38万6,000円を充当しております。同じページの予算書35ページ下段でございますが、こちらからは3目南山城小学校管理費となります。本年度予算額3,452万6,000円で、前年度からマイナス6,297万9,000円と大きく減少をしております。資料では20ページから南山城小学校費になりますが、資料の21ページの方をご覧ください。21ページの下から2つ目の項目でございますが、15節工事請負費におきまして

空調設備工事が完了したことと、それと次の22ページになりますが、スクールバス運行事業費での13節委託料の減少によるものといったものでございます。続きまして、少し飛びますが、予算書の43ページをお願いいたします。43ページ中ほどから中学校費でございます。3項中学校費、1目笠置中学校管理費では、本年度予算額7,884万4,000円、前年度との比較で4,543万3,000円と大幅な増額となっております。資料の方では27ページの中ほどからになります。27ページ、資料27ページ中ほどでございますが、一般職員人件費の方では、スクールバス運転手に係ります派遣職員の人件費返還金、こちらの方は減少しておりますが、その下の管理諸経費におきまして、資料、次の28ページになりますが、13節委託料並びに資料、次のページ、29ページの15節、工事請負費におきまして、トイレ改修工事の関連費用を計上したことなどによるものでございます。次に、予算書47ページからの2目、和東中学校管理費でございますが、本年度予算額2,883万4,000円と前年度よりマイナス2,800万5,000円、大幅減となっております。資料の方では30ページからが和東中学校管理費になりますが、32ページ、資料32ページをお願いいたします。32ページ上段の方でございますが、15節の工事請負費でトイレ改修工事の事業完了によりまして、3,195万3,000円が減しておるといったところでございます。特定財源といたしましては、関西電力からの土地借地料2万円を充当しておるところでございます。続いて、予算書の少しまた飛びますが、53ページをお願いいたします。53ページからは社会教育費になります。4項、社会教育費、1目の社会教育総務費、本年度予算額2,175万3,000円は、前年度との比較でも75万8,000円の増と、全体では大きく変動はしてはおりませんが、新規のものとしたしまして、資料の方の38ページをお願いいたします。資料38ページの一番上になりますが、社会教育事業の南山城村事業におきまして、地域学校協働活動に取り組むため、3節の職員手当等で新たに雇用する嘱託職員1名分の人件費、並びに18節、備品購入費で事務用パソコンなどの整備費用を計上したものでございます。特定財源といたしましては、府補助金の家庭教育支援基盤形成事業補助金など184万5,000円を充当しておるところでございます。続きまして、予算書の55ページをお願いいたします。55ページ、2目の社会教育施設費では、本年度予算額1,442万9,000円、前年度との比較では336万3,000円の増となっております。資料の43ページ下段から次の44ページをあわせてご覧いただけますでしょうか。44ページ中ほどにございますとおり、笠置町公民館運営諸経費におきまして、教育委員会笠置分室の移転に伴う費用を、15節の工事請負費並びに18節備品購入費で計上したことなどによるものとなっております。続いて、予算書では57ページ、58ページをお願いいたします。3目、文化財保護費で、本年度予算額2,574万円、前年度比412万3,000円の増となっております。内容といたしましては、資料の47ページからになりますが、和東町の町史編さん事業において、公用車の購入費用など平成30年度から減少した科目もございしますが、3節の職員手当等において、嘱託職員の出勤日数の増による人件費や、また資料48

ページの19節、負担金、補助及び交付金で、平成30年度当初では計上しておりませんでした、編さん室への派遣職員の人件費返還金922万3,000円を新たに計上したことなどが要因となったものでございます。次に、予算書の59ページをお願いいたします。5項、保健体育費の2目、給食業務事業費では、本年度予算額1億2,523万6,000円、前年度との比較では3,223万8,000円と大きく増加をしております。資料では49ページの下段からになりますが、主には資料、次の50ページをお願いいたします。50ページの和東町給食センターの13節、委託料並びに15節、工事請負費での空調設備工事関係費用の増加と、資料次の51ページになりますが、南山城村給食センターの18節、備品購入費で、真空冷却器などの購入費用が増加したことが要因となっております。特定財源につきましては、各小・中学校の教職員の給食費など1,380万5,000円を充当しておるところでございます。最後に、予算書の61、62ページをお願いいたします。6款、公債費、1項、公債費の1目、元金では、本年度予算額2,316万1,000円、前年度比では404万円の減少となっております。内訳につきましては、資料の51ページ下段をご覧くださいませでしょうか。こちらに記載しておりますとおり、教育債の方では平成28年度許可債の元金償還が始まるため増加しておりますが、クリーンセンター分では平成27年度までの許可債が平成31年度の前期で償還が終了するといったため、減少したものとなっております。以上、簡単ではございますが、平成31年度一般会計予算の概要説明を終わります。よろしくをお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

これから質疑を行います。質疑はありますか。岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

それでは、幾つかお聞きしたいと思います。まず、資料では10ページですね。いわゆる衛生費の関係なんですけども、清掃費関係なんですけども、先ほど来3月末で休止をして、4月以降は当面緊急避難的に三重中央開発に民間業者に、違う民間業者に委託するという事で言われておりますけども、この間、裁判の終了であるとか、また一応3月末で20年という約束をとりあえず踏まえて休止という判断をされたこと自身は、それ自身は評価したいというふうに思うんですけども、ただそれだけに大きなやはりこの年度末にこの分については変更が起こってるわけですね。しかし、議会に対して、これまでやはりこの件について、何らと言っていいほど説明がなかったんですね。今回のこういう新しい契約のあり方、それによってどういう変更があるのかということについて、今の今まで何ら、何の説明もないという状況の中で今日を迎えてるんですね。先日の議運のときにその辺の話が出たときに、そういった資料は当日配付すると言われたんですね。それではやはり大事な予算を議論の上ではそれはよろしくないということで、事前配付ということで、昨日、事務局の方には大変ご苦労いただいて議員の方に配っていただいたという資料がこれなん

ですけど、ただやはり、連合長が挨拶の中で、いわゆる今度契約される業者との今調整をまだ行ってるという話もされてました。ということは、何らいろいろちゃんと決着つかないままこの予算を提案されてるというふうにも受け取るわけですけども、やはりそういう点で大変丁寧に欠ける対応をされとるんじゃないかと思うんですけども、その辺連合長はいかがですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

ただいまの議会との対応の問題でございますが、私の方は2点を申し上げまして、お答えとさせていただきたいと思っております。この20年でこれが契約で終わるということ踏まえて、いわゆるこのいろいろな専門の委員さんとかあとの方をどうするか、こういった検討を進めてまいりました。そういった方法についてはもうご案内のとおり、その内容については委員会の報告として、その内容については議会に報告申し上げて説明もさせていただいております。それに基づきまして処理をやってきて、その中での緊急避難としての民間委託もありきの方法をとらせていただきました。そうやってそれはやっぱり方策は変わりますので、相手のプロポーザルとかいろんな手法をこらえて、今その方策をとってやってきたというのが今、岡本議員が手だてをとってきたという内容に当たるかと思っておりますが、そういう方で努力をしております。もう一点の方法でございますが、こういつて最終、非常にぎりぎりまでこうしているような方向、プロポーザルもとりですね、いろいろな方詰めてまいりました。これからも予算をご審議いただいて、ご承認いただく中で、また詰めていくものがたくさんあるわけでございます。そういったことの内容、今日にあって初めてわかったということですけども、その前にそれぞれの委員会があるわけでありまして、その調査内容の中でご説明をさせていただきました。その中でご提示いただきましたが、なお資料のないものについては、今もお話ありましたように、もうぎりぎりまで申しわけなかったんですが、そういつて委員の手元に届く方で努力させていただきました。十分か十分でないかと言われれば、少しそれは十分ではない問題もあるかと思っておりますが、今のこういった変換期に当たっての精いっぱい努力をしております。こういったことを踏まえて、これからの事務がまだ残っているわけでありまして、十分この辺のところも慎重に進めてまいりたいと思っておりますので、議員の皆さん方のご協力をいただきたいと、このように思います。以上、答弁とさせていただきます。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

連合長は今、説明してきたって言われましたけど、説明してないと思うんですよ。実際議運のところでこちらが言わなかったら、何もそんなこんなこともされなかったわけですよ。要は、もう当日配れりゃいいだろうっていうね。しかも、まだ委託業者との調整というのが終わっていないという状況で言えば、この予算自身がじゃあどういう根拠で提案されてるのかというふうにも思うわけですよ。そういう意味でも大変ちょっとですね、大変重要なやはり案件であるにもかかわらず、議会に対しても、またこれはひいては住民に対しても、ほとんどやはりちゃんとした説明もせずに提案されてるということは、大変遺憾だというふうに思うんです。その上で先ほど来、次の年度の大きな問題として、民間委託をして一応ごみの行き場所は確保しつつも、再稼働をお願いしていくという話を先ほどから縷々言われております。ただ、これは相手があることですから、必ず応じていただけるというものではありません。私は地元の方が本当に納得されて合意されて再稼働という動きになるのであれば、それ自身をどうも特にどうこう言うものではありませんけども、やはりこれはやはり相手のあることです。そこでちょっと連合長にお聞きしときたいんですけども、来年度の中で、じゃあどこまで協議を進めようとしてるのかということなんですね。その中身として、先ほど来あの施設は耐用年数は40年なんだと言われましたよね。言われましたね。ということは、倍使えるということですね、20年だけど今は。ということは、それを目いっぱいもったいないって言われてましたけども、もったいなく使うという意味であれば、協議の条件として、じゃあ何年お願いするのかということも大変大きな問題になってきますと思うんですけども、そこは耐用年数を上限にした協議をされるということなんでしょうか。それと、その協議っていうのは、やはり相手がうんと言うまで続けるものなのかですね。どういう方針で協議されるんですか。どうですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

お答えいたします。最初にこの今の期限の問題で二通りを言われましたですね。いわゆる何ちゅうんですかね、施設そのもの。これはコンクリートで建ってるわけです。鉄筋コンクリート。その普通の建築工法に基づく耐用年数というのが基本になってまいります。その辺がもし超えてまでお願いとなったら、これももう建てかえをしてお願いしなきゃならない。これはもう完璧にまた別の話としてお願いすんねやったらお願いしなきゃなりません。これはまた別の問題です。ただ、今申し上げてる延長は、その耐用年数がある、まだそうやって使用可能な範疇。そして、計画においては廃掃法で自分とこの処理する施設を持っているという段階での話ですので、これはやっぱり延長についてお話を進めていくというのが筋であると思います。また、そのとおりやらなきゃならない問題であります。

そうなってくると、今岡本議員も言われますように、相手のある話であります。先ほど来答えておりますが、住民とは真摯に向き合い、調整をしていくと申し上げました。これは今岡本議員が言われる、無理やりに続けるかには当たらない。いわゆる十分努力し、一生懸命努めていくというのは、先ほどの回答でも申し上げております。その中の一つとしてはこういつて和解もあった裁判もあるし、先ほどからありましたように安全を先とって、その方策も決めたり、そうやって今後の方策も決めてですね、やっぱりお願いしていくのが筋だということでもあります。ただ、そういうことも含めて、一年一年のその内容は審議していかなきゃならない。この予算は一応1年として提案させていただいておるわけ、当然の話ですが、そういう中で、少なくともその中では今の段階ではそれに向けて努力をしていきたい。こういう思いであります。当然、条件整備もしていくということは先ほども回答させていただいたとおりであります。そういう意味におきまして、今後の方向はいつまでを目途にと言われるんですけども、一年一年予算を立てていきますので、その都度その都度の内容で努力してまいりたいというようにお答えさせていただくことと、いつまでということ、先ほど真摯に向き合うという中では、切ってやるというよりも努力させていただくということでご理解をいただきたい。年度もあります、そういう節々で努力していくということでご理解いただきたいと思っております。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

一年一年という話ですけども、ただやはり先ほど来、例えば木津川市の方に入れていただくという話とかいうことも一方であるとか、だけどやはり再稼働をやっぱり進めていくというか、いろいろ二兎を追うっていうんですかね、という状況の中で、結局何も決まらないという状況が多分この間の話だったと思うんですね。何ひとつここ数年動かない中で推移してきた。ようやくここに決着ついたわけですけども、やはりそういう点ではやはりもう少し目途を持って予算も組んでいただきたいなと思うんです。もう一点、休止になって、ここに書いていただいておりますけども、伴う臨時経費ということで、いわゆる清掃業務であるとか、さまざまなメンテナンス等で、おおよそですけど3,900万ほどかかるということで、あげていただいております。これは休止が続けばずっとメンテナンスをしていかなくちゃいけないということになるんですけども、その辺の、今年はこれだけということですけども、今後そういったいつまで休止状態が続くのかっていうことは、わからないわけですから、一定その辺のこういった経費って、今後どれぐらいかかるっていうふうには、考えておられるか、それともう一つは仮に再稼働をするっていうのであれば、前にも少し言われていたかもしれないけども、今の施設のままでずっといくという、やはり一定の改修も必要だというふうに言うておられたと思うんです。そうなるとやはりまた改修費

もお金がかかってくると、動かすにしても。という点でかなりまた大きな分担金も必要になってくると思うんですけども、当然そういった目途ももった上で、そういう方針をもっておられると思うんです。何かその再稼働が決まってから決めるということではなくって、再稼働の方針をもっておられる以上は、した場合のどういうものに経費がかかるかということも当然今の段階でお持ちな上で、こういう方針をもっておられるということによろしいですか。ちょっと始めの部分は課長と後ろの部分は是非連合長にお願いしたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

施設の方の耐用年数20年、使用期限20年ということでございます。その中でここ20年経過の中で施設の維持管理をできるだけ使用期限があるので、節減して最小限の中で今まで施設整備運営してここまできてまいりました。今年に、30年度につきましては、緊急避難的な修理とかも含めてかなり多くの修理をやはり老朽化に伴いまして、行ってきたところでございます。そうしたことを踏まえますと、まず施設のピットの中の清掃作業を含めて休炉に向けた準備をさせていただきまして、31年度につきましては、この休炉の期間に設備全体の点検、ここでどの程度の施設改修が必要なのかというのを算定したいと考えております。いわゆる施設そのものがどの範囲で使用していけるのか、逆に更新をして設備を維持していく方が、新しく施設をしていくのがいいのかというところで検討してまいりたいと、そのあわせて、これとあわせて施設に当然イニシャルとして必要になりますので、財源確保として補助金等の検討も含めて考えていこうと、考えておりますので、全体的には、それを踏まえた検討を31年度に進めたいと考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 連合長（堀 忠雄）

基本的にただいま課長のほうから答弁をさせていただきました。後半ということであります。あとこれを直すのにお金、直すの前提に考えているのかと、こういうところで私に聞かれたのかなと、このことを思っただけで答えさせていただきます。当然今も話がありましたように、年々数千万という、ランニングコストというんですか、維持費にも、施設の維持改修にお金をかけてきました。こういったことは当然ありますので、これから先にもそれは最小限、そういった改修というのは止まってまいります。再開が起こるとなれば、想定できるのはその時点である程度の改修を入れていかないといけないというのは、これはも

う見えているところであります。そういうことに備えて、私も一般質問でお答えもさせていただきました。今後そういったことが予想されるということで、一般廃棄物処理基本計画をきちっともって、ただいま課長も申し上げておりますように、そういった内容を補助金の対象にしていこうと、そしてなるべくそういう形で受け入れられる体制をつくっていこうということで、今から計画をきちっとしていく、こういうことでのぞんでおりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

坂本です。衛生総務費、需用費の中でジェットパック車の修繕、ページ数は資料の10ページ。衛生総務費11節の需用費、修繕費、特殊車両及びジェットパック車修繕代に50万円。ジェットパック車車検整備代金に20万円。これはもうすぐできるように準備を整えておくためのものなのか、それとも予算計上しといて使わへんかったらまた来年繰り越すんか、どういう目的でこれ予算計上されているんでしょうか。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

これは今現在、薬剤を使っている運搬車の車検費用、それとメンテナンス費用でございます。これについては基本的には1年車検というところもございまして、それにうちとしては清掃の際に、今考えられるのは、いわゆる汚水を処理しないとイケないので、そういったところに合わせても使用していこうと考えておりますので、ジェットパック車の方は、使う予定をしております。

◎ 議長（杉岡 義信）

坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

本来消石灰とか、そういうのを運ぶために使ってたかと思うんですけど、それを汚水も運べるようなイメージで今後は使用すると、それでまたそれは消石灰を運ぶ業務が出てきたときには、消石灰にも使えるという認識でいいんですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

今とりあえず考えているのは、いわゆる消石灰は当分の間、運ぶことはないと考えておりますので、まず汚水をどんな形で、進入路を含めて狭い中で運びださなければいけないので、小運搬ができる設備をできるだけ有効活用したいと考えておりますので、まずそれを運び出すと、温熱処理をするということを念頭に考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

そうすれば、次、また再稼働可能になったっていうときは、ジェットパック車はどうするんですか。再購入。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

ジェットパック車は、そのものはもう年数も施設がスタートしてからもう20年経過もしています。全体的には他の車両も20年以上近く経つ車両も多いという状況になっておりますので、その際には新たな車両の購入等含めて、比較検討したいと考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。鈴木さん。

◎ 6番（鈴木 かほる）

昨日持ってきてもらった資料ですけど、ちょっとこの資料の説明をいただきたいのです。1番聞きたいのは、住民にとって1番気がかりなのは、収集は今までと同じようになるのかとか、料金がどうなるのかとか、そういう一番身近な話なんです。ちょっと説明いただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

お手元のほうの、カラー刷りの方のフロー図の方をご覧ください。よろしいですか。今回、相楽東部広域連合の方で、収集運搬をするごみの種類別に図化したものでございます。可燃ごみ処理フローの部分については、いわゆる生ごみの処理に該当するもの、次に大型不燃ごみ、いわゆる粗大ごみでございます。その分が次のところに書いてあるフロー図でございます。続いて再資源化ごみのごみフローとしまして、缶、その他プラスチック容器、包装、ペットボトル、瓶、瀬戸物といったような、今収集を行っている基本的な相楽東部広域連合、東部クリーンセンターで処理を扱っている対象物となっております。可燃ごみにつきましては、各家庭ごみ、もしくはステーションですね、に、排出されたごみを収集運搬業者が収集し、三重中央開発の方に処理を委託するわけなんですけど、可燃物の処理施設に運搬しまして、そこで処理をしまして、最終的に最終処分施設内の最終処分地で残渣をいわゆる埋め立て処理するというような流れになっております。全体的に同じような形で見ていただければ結構かと思いますが、粗大ごみにつきましては、一旦家庭から、各町村から集めさせていただいた収集物を一旦、大北リサイクルセンターの方で集積をしまして、ここでいわゆる金属類の事前抜き取りというのをさせていただきたいと思っております。ここについては収集の量を減らすための処理でございます。金属類は当然燃えたりしませんので、これを抜き取ることによって、できるだけ処理費を減らすということに考えております。そこから集積されたものについて三重中央開発が搬送しまして、粗大ごみ施設のところで処理施設で可燃物等の破碎をしまして、可燃、不燃物に分別をしまして、最終処理していくこととなります。次に再資源化ごみの方です。これについては缶類、ペットボトル、プラスチック容器ごみ、そういったものにつきましては、赤い今までの袋、缶類はちょっとあれですけども、特に容器、包装、プラスチック容器のごみ袋を使っただきまして、プラスチックごみが収集されます。同じく中間処理施設として大北リサイクルセンター、今現在東部クリーンセンターの代替え施設という位置づけで、そこで処理をされていますけれども、その再資源化ごみ施設のところで、選別、プレス等を行いまして、残渣等と適合品を分別することによって、日本包装リサイクル協会の方で資源ごみを売り渡すという形になります。残渣につきましては三重中央開発の方にまた持ち込みまして、最終焼却等をして残渣という形になろうかと思っております。経費につきましては、これは当然、今30年度の予算と比較をしましたところ、約2億ほどの30年度の処理経費にかかるこれらの経費におさまるような形で今回、プロポーザルで提案をいただいておりますので、またその分については、次の資料の方、大きなA3版の方の資料で見ていただければいいかと思っております。ざくっと簡単に説明させていただきますが、1番下の方の集計表のところの合計を見ていただければと思います。収集運搬業務のところでは30年度では、657万1,000円の、四捨五入の関係で1,000円にしておりますけれども、予算では2,000円となつたと思っております。今回新たな提案の部分につきましては、6,097万1,000円の収集運搬の業務費用がかかるという形で見ていただければ結構かと思っております。中間処理につきましては、9,416万4,000円に対しまして、新たな提案に

つきましては、1億832万3,000円。収集運搬と中間処理の計でございますが、その後ろの方で見ていただいたら、ちょうど真ん中の部分でございますが、1億6,175万8,000円が収集と運搬そして中間処理という形になります。それが30年度の連合での委託処理費を含めた経費でございます。今回民間に委託することによって1億7,211万3,000円という形になっております。ただ今回は最終処分の処理費も含めてのご提案でいただいて、今回、今までですと連合で、東部クリーンセンターでは、大阪フェニックス、南都興産、三重中央とそれぞれわかれたような形で処理を行っていたわけなんです、これをまとめることによって、経費が節減できるということで、最終処分の方では、30年度で3,647万6,000円かかっていたものが、今回の新たな提案の方につきましては1,063万2,000円ということで、合計しますと30年度、いわゆる一般廃棄物の処理費にかかっている経費が1億9,823万4,000円に對しまして、今回提案いただいています1億8,274万5,000円ということになり、約1,548万9,000円の減額となる見込みでございます。以上簡単ではございますが、経費の説明をさせていただきました。

◎ 議長（杉岡 義信）

鈴木さん。

◎ 6番（鈴木 かほる）

それで今までと同じ形で住民に知らされるんですかって。それと10月から消費税がもし上がったときには、この金額はまた変わってくるんですね。収集の例えばごみの袋代が高くなるとか、そういうことはないですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

処理費の経費につきましては、基本的には変わらないということで、ご提案をさせていただきます。消費税の問題につきましては、これはまた経費と別の話でございますので、今こちらの方につきましても、年間を通して8%という形で、これについては算出をさせていただきます。当然例えば10月から処理が、消費税が10%に上がれば、その部分からは、消費税は当然10%に上がりますので、経費も上がります。ただ今後のごみの処理の袋代につきましては、また条例等を消費税を反映させるというのが基本にはなると思いますけれども、また条例等にかけないといけないこともございますので、年度途中で直ぐに変えようという考えは今、ございません。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑さん。

◎ 7番（畑 武志）

いろいろ先ほどから聞かれております関連することでございます。当初予算額の中で塵芥処理費が2億4,875万、30年度が2億と3,900万近くが増えているということで、先ほど説明がありました。もう一つはこの3,900万の中には、ピット作業から可燃とかいろんなどころであります。ここで聞きたいのは、何で差額が1,500万ほど少なくなっていると、こういう説明でしたが、ここで聞きしたいのは、私はこの10ページの委託料、休止に伴う施設のメンテナンス業務委託費547万545円ですか、この計算は1万9,100円を52周かける1.7のかける消費税ですね。そうすると、52周ということは、週に1回ですか。週に1回動かさなくてはならないということですね。それで、ちょっと私わからないんです。1,500万円は、少なくなりました。だけど547万円はかかってくるんですね。今までは常時動いてたらこれは保守点検委託料は、あったんかどうかは知りませんが、1週間に1回なんて動かす必要なかったですよ。これ1,500万って言われるけど、実際には1,000万ぐらいと違うんですか。これは数字のマジックでしょう。どうですか、課長。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

すみません、数字のマジックと言われてしまえばあれなんです、基本的には委託経費という部分の、いわゆる処理費を単純に比較したものが1,500万のマイナス。施設そのもの、5,600万なり。1年間の経費を通して動かしていると、委託料として5,600万余りの経費がかかっていたというところで、今回、当然今は週に1回と、最低限のメンテナンスで予算を上げさせていただいています。現実には3日に1回動かせばええというような現場の話もあったり、メーカーさんの意向もあるんですが、こちらとしては最低限の予算でまずスタートさせたい。場合によったら、当然稼働させないでいい部分も判断としてはあるかなと思っております。その部分については当然減らしていこうということで、とりあえず一旦施設をとめて、中の点検を行って、その判断で仕切りをしたいなど。当然施設の傷みの部分がありますので、言うたら当然更新をしないといけないところにつきましては、メンテをする必要もございませんのでそういったところはコストカットをして進めていけたらなと考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑君。

◎ 7番（畑 武志）

例えば、31年度が547万です。このピット掃除とかは、来年度は32年度は要らないというような解釈すると、547万は今度再開に向けるまで、ずっと要るということですね。そうとってよろしいんですね。そうすると、先ほど言ったように何も安くなってない。私はこのように思うんですけどね。これが1,500万、1年で540万、3年したら同じところへ来るのと違うんですか。単純計算ですよ。そうはきっちりいかないと思いますけどね。それからもろもろの中でいろいろ借地料、これは恐らく廃炉にならん限りは要りますわ。だからいとも簡単にやはり、話戻したらぐあい悪いんですけど、いとも簡単にこれを考えるなら、ちょっとおかしいかなとこのように思うんです。連合長、どうです、これ。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

これひとつ気かけなければなりませんのは、1年がこうやさげ、3年やったら元に戻るやなしに、単年度の比較してきてますので、単純に単年度の比較でやってます。1年かけてこれだけやると。その中でも初年度だけ必要なものがある。これも初年度だけ必要。こういうものは実は初年度だけだということになります。それと、ここで大事なのは、確かに今、畑議員が言われますように休止と廃止の違いの考え方が大きく違います。廃止でしたらもう何をくださいようがもうそんなん全然処理します。全部整理します。休止というのはそういうわけにはいきません。最小限。それは初年度はこれだけかけていくけども、予算は見ていただいて、これはプロポーザルで大体これで上げていただいている内容を話し合っただけでいけるのかなというところを予算にしました、この根拠は。ところが、こう話していくとどこで必要なものでなくなったらあると。先ほどのように車でしたら、もう20年かかって廃車寸前やけど、ここまでもたそうとしてみてもたしてきました。そして、ああいう他の利用されてです。今度やろうと思ったら、次に新たに買う方が安くつくとか。細かい、細かい、この施設こうやって点検したけども、こんなもん維持費かけんと、もっと再開のときに新しく購入した方が早いやないかとか、そして補助金なくてもええやないかというのが、これから細かいところの議論をしていきたいと思います。そしてもう一つは、これトータル的にいくのは、運転の業者に委託する分と、そしてまた直営で要る分が足さなくてはなりません、大体委託する分において金のかかる分、もう要らなくなった分、例えば点検でも要らなくなる分があります。しかし、今まで可燃物というのはみんな燃やしてまして、そこへうちの費用ありましたけど、その費用はもう減って、そのかわりにその可燃物を持ち込んで入れたというのは昔やったら灰だけにして持っていったけ

ども、今そのまま持っていかなくてはならん。こういう細かい項目で増減があります。全部足してみたら、大体1年の平均では1, 500万ほどずっと減るだろうというような計算のところを目安にさせていただいたらありがたいかなと、このように思ってます。確かにこれから、今課長が申しておりますように、これは初めての試みですので、入ってみて、こんなもいいでかいって1年1年こうして見てお金かけて維持せなきゃならんって、もう灰は捨ててしもうて、もうやった方がええという場合は、次年度は、なしにしたり。やっててやっぱりこれなしで来たけど、これ必要やなというときはプラスにしたりとか、そういうのはちょっとここ1、2年必要かなとこのように思っております。それと先ほど、ここちょっとおかりして悪いですけど、鈴木さんの言うておられる住民に対しての不安は、お金が上がったりとか、さっきの条例の問題ありますが、基本的にそれによってお金有料になったとか、今の現状維持というふうに考えていただいて、不安を払拭していただいたらありがたいなというふうに思います。以上、申しわけございません、答弁とさせていただきます。

◎ 議長（杉岡 義信）

畑君。

◎ 7番（畑 武志）

もうこれ以上言うたら、またごちゃごちゃなります。もうこれ以上言いませんが、ちょっと数字のマジックもあったんかなと。それともう一つは、最後にこれだけはやはり確認だけしておきたい。安心安全で1円でも安いという考えは、これはないように。安心安全なことも考えていったら、1円でも安いという考えだけは、なくすようお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

お答えいたします。この一般ごみの処理というのは、廃掃法という、これ略して廃掃法と言われてますが、その法律では、行政の責任で処理しなくてはなりません。だからそれに基づいて、だからこの廃掃法なかったら、これしたらもっと安くつくのになというところはやらなきゃならない。いわゆる中間処理施設をもって処理しなさいとか、こういう施設持たないと直接入れ込むことはできませんよとか、法律で細々うたっております。こんなん無視してやるんだったら、もっともっと安なるだろうということありますが、やはり基本的には自治体の責任、廃掃法にのっとって処理する。こういうことをご理解をいただきたいというふうに思っております。そういう観点から進めてまいりますので、よろしくお

願いたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

2番、西岡です。私は笠置町の分室の移転の件について質問いたします。資料の44ページ、これ、分室の移転については、今年の8月ぐらいにやるというようなことは聞いておるんですけども、これ、44ページの委託料、ここには分室移転に伴う委託、引っ越し委託料ということで27万1,000円ほど出てます。それから、その下に笠置分室の駐車場、これは19万2,000円ですか、出てます。それでこれは前年度よりもマイナス19万2,000円、半分になっておるわけですけども、向こうへ移転された場合は、駐車場はどういうふうにされる予定になってるのか。それとあと、移転する費用は見てあるけども、産振の方へ入られて、そこの部屋の整備とか、図書室をどうするかとか、そういう問題も多分考えておられると思うんですけども、その費用なんかは、これ次の笠置町図書室運営諸経費と書いてあるところで見られるんですか。その辺どうなってるんですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

ただいまの質問にお答えいたします。まず、駐車場の件でございますけれども、現在の予定では、31年8月末日を目途に移転を完了するよう進めていくつもりでございます。したがって、駐車場につきましては費用的には2分の1の計上となっておりますし、新たな産業振興会館に移転した後につきましては、そちらの駐車場を使用するという予定でございます。次の質問の引っ越し費用の件でございますけれども、27万2,000円につきましては、事務用品等の引っ越し代にかかる費用。そして、15番の工事請負費におきまして、373万7,000円を計上しております。こちらの内容につきましては、電話工事等もありますけれども、基本的には書架の整備、図書室の移転に伴う経費が357万ほど計上しております。したがって、その費用は15番に組んでいるというものでございます。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

わかりました。この下の工事請負費とかこの分がその分を見てると。はい。それはわかったけども、今の駐車場の件はどうですって。今、8月までは今のところで必要ですね。8月以降は向こうへ移った場合の駐車場はどこへ置くような話になってるんですか。

◎ 議長（杉岡 義信）
井上生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）
現在のところ、産業振興会館の表の駐車場というところでございます。

◎ 議長（杉岡 義信）
西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）
それは無料で使えると、こういうことですか。

◎ 議長（杉岡 義信）
生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）
最終的には笠置町さんとの調整もありますけれども、現在の使用のとおり無料ということになっております。

◎ 議長（杉岡 義信）
西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）
今、産業振興会館へ分室が移らるけども、産業振興会館は分室だけのものではないんですよ。そうでしょう。そやから、あそこの今の現在の駐車場は、分室が行って車何台置かはるん、4台ですか。4台あるんやったら4台置かはったら、ほかのもんは置けなくなるでしょう。その辺のことはちゃんと笠置町のほうと調整は済んでるんですか。

◎ 議長（杉岡 義信）
生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

最終的な調整につきましては、次年度以降、8月31日までに笠置町さんと詳細は詰めていきたいと考えておりますが、必要であれば、現在の駐車場のところも引き続き使えるという可能性も秘めていますので、後ほどまた協議したいと考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

資料の13ページの義務教育振興諸経費の中で、小学校、中学校の図書司書のアルバイト賃金等が挙がっておりますけども、これは昨年度と比べまして現状維持なのかどうかを確認したいのと、それから教育委員会として、いわゆる今、現在巡回による図書館司書の配置ということが続けていただいているんですけども、今後についてどのように充実させていきたいというふうの方針をお持ちなのか。その辺ちょっとお聞きしたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

教育課長。

◎ 学校教育課長（竹谷 正則）

失礼いたします。小学校、中学校の図書司書さんの賃金ですけれども、30年度と同額とさせていただいております。各学校、図書司書さんに関しまして要望等確認しておりますが、現状の体制で大丈夫ということでございますので、このような予算でさせていただいてるところでございます。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

ちょっと今後の状況について答弁いただけていないんですけども、それでやはりこの条件でいいですと、小学校でいいですと月に12日間で6時間ということで、大体今は週1日、各学校、小学校については、中学校もそうですけども、週1日、小学校では6時間、中学校では4時間しか滞在していただけてないという状況があります。やはり、今そういった形で配置されてること自身でいろんな意味で貢献いただいている部分はあると思うんですけども、やはりもう少し思い切った充実の方をお願いしたいと思っています。それで、今各周辺の自治体、教育委員会なりの学校はどういうふうになってるかということもちょっと調べられた資料があるんですけども、例えばお隣の宇治田原町では、週4日、同じ方が専

任でその小学校または中学校に配置されて、週4日勤務されてるといふふうに聞いております。また八幡市でも、小学校は専任配置されておりますし、長岡京市なども宇治田原町と同様に専任で配置されてると。巡回ではなく専任で配置されてるといふふうに聞いております。やはり司書の先生というのは専門職ですから、やはりそういう専門的な知識とか、技量というものを、やはり100%本当に生かしていただくという点では、やはり中途半端な配置ではなくて、よりその学校に密着して専任的に配置していただくということが、大変専門的な力を引き出していただく上で必要ではないかというふうに思っておりますけれども、その辺、教育長は今後この分について、どのような充実の方向を持っておられますでしょうか。

◎ 議長（杉岡 義信）

西本教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

図書館教育につきましては、重要な学校教育課題だといふふうにまずは認識しております。ということで、毎年この時期、各学校に、いわゆるその図書館の貸し出し、図書室の使用状況の調査を行っております。それで大体今のところ、今月中に貸し出しの調査の結果が上がってくるかと思うんですが、これ、経年比較しまして、やはりまだその状況が悪いようでしたら、いろんな視点からいろんな角度から、今言いました図書館司書、あるいは司書教諭の活用等も含めて、今後の検討課題にしていきたいというふうに考えます。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

いわゆる図書の、子どもたちの読書量がどれぐらいあるかとか、増えてるから必要ないとか、少ないから必要だとかいうようなことではなくて、やはり子どもたちと本との出会いであるとか、また授業との関係で考えられるさまざまな効能であるとか、そういった部分で全面的なやはり役割を果たしていただくのが、司書の役割だといふふうに思っております。ですので、そういったことも重々わかっておられるとは思いますが、是非近隣と考えると大変遅れた状況になりますので、是非思い切った配置の方を今後、是非検討いただきたいというふうに思います。それと、44ページの資料でいいますと、体験交流センターの図書室の関係なんですけれども、和束町の体験交流センターの中にあります図書室につきましては、ずっと以前から今のような形で運営をされておまして、ずっといわゆる嘱託の図書館司書の方を1人配置して運営されております。やはりこういった事業というのは、和束町で言いますと大変数少ない文化的な施設と、文化的な機能という状況の

中で、やはりいつまでもこのような状態の中でこの図書室の運営を、終わらせるということではなくて、やはり図書館司書の複数体制であるとか、また開館時間についても、やはり一般の図書館と比べましても大変短い状況がございます。そういったこともやはり今後、目を配っていただいて、より子どもたちだけではなくて、住民の皆さん全体の読書のニーズに応じていくと。そういった意味でやはり今後体制の強化であるとかいうものも、是非検討いただきたいと思っておりますけども、今後のその体験交流センターの運営について、どのような方針を持っておられるか、ちょっとお聞きしたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

ただいまの質問にお答えいたします。ただいま岡本議員のおっしゃられました意見を参考にしながら、今後検討する時期がまいりましたら協議していきたいというふうに考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

坂本です。資料の11ページの施設整備費委託料の中に、ごみクレーン点検と地下重油タンク清掃作業委託、重油抜き取り作業というのがあるんですけど、ごみクレーンに関しては、これ法令点検ですかね。これ305万1,000円、これに先ほどの畑議員おっしゃった500万台を出してくるともう800万円超えてくると。その1,500万の貯金が一瞬でなくなっていくような計算になっていきますやんか。この辺って、ごみクレーンは法定点検なんか、それともさっき課長が言ってたように、今回から点検期間に入りますと。その中の一つのものにこれだけの経費がかかるのか。でも去年もかかっているんで、きっと法令なのかなと思っておるんですけども、その辺も踏まえて、どういうふうに法定点検する。でもごみピット使わない。それずっと法令点検していかなあかんもんなんか。その辺ちょっとお聞かせください。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

質問にお答えします。基本的にはごみクレーンは最終休炉後にピットからできるだけ残

ったものを排出するのにクレーンを使います。あと、今考えてるのは、あのピットの中にそれなりのバックホウ等、資材を投入しないといけない。その際に当然クレーンを使用します。そういう形でクレーンは今年いっぱい使うという考え方で、まず法定点検してないと、これでもし何らかの事故があれば、これがまた問題になってきますので、基本的にはきちっと点検したもので施設をメンテナンスしたいと考えてます。次年度以降につきましては、当然クレーンが多分必要にならないと思いますので、法定点検については必要ないと考えております。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

何が言いたいかというと、この1,500万のお金浮いたというふうに行政側はおっしゃいますけども、逆に言えばまちからその事業が一つなくなったと。まちの業者の今まで培ってきたスキルとかを全部外に出すような、点検とかそういう業務に移行したという話ですよね。大栄環境なんで、すごくとてつもない大きな会社です。安心してごみも捨てられます。それも僕は重々理解はします。ただ、今まで東部じんかいという組合がずっと育ててきて投資してきて、自分とこのまちの従業員育ててきたと。その会社育ててきたお金を、安くなったからといって移行してええものかという話ですわ。でもランニングはこうやってかかってくると。そこで、その1,500万安くなったからええんちゃうという話は、僕はないと思うんですよ。その技術ってお金で買えないものをずっと投資してきたわけじゃないですか。ここからまだ20年使える施設を、その1,500万足らずのお金で、自分らのまちの技術者をなくしていくというのは、やっぱりもったいない。そういう感覚がないとまちは育たないし、若い子は育てていけません。単に家を建てるとか物をつくるということだけが技術じゃないではないですか。無事故で今までずっと守れてこれたというのは、すごい名誉ある仕事やと思うんです。それを行政が、言うたら一般廃棄物は自分らで処理しなアカンという決まりのもとに、一業者を守ってきたというそういう尊い仕事やったと思うんですよ。東部じんかい処理組合というのは。それを単にお金1,500万、年間浮いていくから、私たちはそれでいいんだということは、一概に言えないと僕は思ったわけです。今回のこの点検に関しても、例えば今年1年お休みするんで、じっくり点検しますと。ではこの点検期間に来年度当初でどういうふうな実行計画とか通年でこれぐらいの点検をしないとイケませんかというものが出てくるのか。そういうものは大いに期待します。ただ、畑議員おっしゃられたように数字のマジック、安くなったからいいでしょうみたいなんで、議員がうんというような時代ではないということも、執行部も事務局側も認識していただいて、まちの財産ってどこにあるのかという名のもとに行政活動を行っていただきたいなと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

西岡です。もう一点ちょっと質問いたします。16ページの笠置小学校の管理費の13の委託料、ここで伐採等処理作業委託として、笠置小学校立ち木等処理業務委託50万出てますけども、これはどこをやらはるのか。私、前回の議会で多分ちょっと指摘させてもらったところがあるんですけども、その辺をやる内容になってるんでしょうか。お聞きします。

◎ 議長（杉岡 義信）

学校教育課長。

◎ 学校教育課長（竹谷 正則）

失礼いたします。立ち木の伐採処理委託ですけれども、昨年、倒木がございました。倒木したところ、まだ道路にかぶってる立ち木等、枝がございました。そちらの部分を剪定、伐採したいと考えております。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

その倒木したやつの処理だけですか。進入路の問題はどうなったですか。この50万というのはその立ち木の処理だけですか。あと2本残ってますね、ごっついやつが。それを切るんですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

学校教育課長。

◎ 学校教育課長（竹谷 正則）

そちらの立ち木、道路かぶさってる部分とかの枝を伐採しようと考えております。

◎ 2番（西岡 良祐）

進入路はどうするの。

◎ 学校教育課長（竹谷 正則）

進入路につきましては、先日、職員の方で、竹とちょっと伐採の方入らせていただきました。また道路の方にかぶってきてる枝等、竹とか出てきましたら、また処置の方させていただきますと考えております。

◎ 2番（西岡 良祐）

ここは入ってない。

◎ 学校教育課長（竹谷 正則）

今の予算では計上しておらない状況です。

◎ 議長（杉岡 義信）

西岡君。

◎ 2番（西岡 良祐）

入ってへんのやったら、その今、竹切っていうてはるけども、私、3日前に枯れた竹が落ちてきておるの目撃してますよ。どうすんやな、それ。

◎ 議長（杉岡 義信）

学校教育課長。

◎ 学校教育課長（竹谷 正則）

先々週ですか、こちらの方から職員の方で道路に倒れてきている竹等は伐採に参っております。まだ少し残ってる部分がございますので、また続いて処置の方していきたいと考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。鈴木さん。

◎ 6番（鈴木かほる）

学校の図書の関係で、この前の委員会の際に笠中が基準に達していないと、蔵書数が。というので、調べてまた言いますという話だったんですが、まだですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

教育次長。

◎ 教育次長（竹谷 秀俊）

笠置中学校の図書の蔵書数の件でございますが、この図書標準という数値なんですけども、これは平成5年に国の方で図書館の図書の整備を図る際の目標として設定されたものでございます。この数値が30年度、今年度の見込みにおきましても笠置中学校では不足となる見込みでございます。年々、図書を購入しておりますが、一方で廃棄という作業もでございます。図書司書を中心に蔵書の質を考えて、読書につながるような更新作業をしております。単年度で多くの予算をつけて一気に蔵書を増やすという方法もございますが、ちょっとデメリットも考えられますので、今後、南山城村当局と調整しながら、早く達成できるよう努力してまいりたいと考えております。

◎ 議長（杉岡 義信）

鈴木さん。

◎ 6番（鈴木かほる）

この中学校の予算そのものは増えてないんですよね、去年と。何か3回終わりそうなんので先に言わせてください。

◎ 議長（杉岡 義信）

いや、2回目やから大丈夫や。

◎ 6番（鈴木かほる）

増えてないのが気になるんです。それと、何かある司書委員会で調べたその結果を見ますと、これ、中学校が東部には2校しかないんですけど、その2校とも基準に達していないというデータが出てるんです。ということは、多分75から100%未満っていうのが和東中学で、笠置中学は50から75%の充足なんじゃないかなと思うんですけど。それからもう一つびっくりしたのは、小学校で1校、25%未満の小学校があるっていうふうに、そのデータには出てたんです。その辺はどうなんかなと非常にびっくりしております。

◎ 議長（杉岡 義信）

教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

今、文科省の基準に達してないのは笠置中学校だけです。75%ぐらいですかね。あと、学校によったらいろんな寄贈とかなんかもありまして、例えば南山城小学校でしたら150%になっております。他の4校につきましてはクリアしております。ただし今も言いましたように、笠置中学校は以前からかなり少ないというのは聞いております。一旦、基準

のどこまでいったんですが、数年前にいわゆる廃棄とか何かちょっと進みましたんで、今75%ということです。学校現場の方もちょっと少ないというのは、今、自覚してますから来年度からアップしていこうというふうに今、学校と進めています。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

鈴木さん。

◎ 6番（鈴木かほる）

学校の本というのは、やっぱり教育の場所での本なので、やっぱり基本的なあれとして、例えば図鑑がいたりとか、それからいわゆる教育関係のそういうものをそろえなあかんのですね、読み物があればいいっていうんじゃないで。それを京都府下の統計によりますと、やっぱり40%、50%ぐらいは、もうそれが5年前の本であったり、10年前の本であったりとかいう。だから、ただ単に数があればいいっていうものじゃないなと思うんです。そういう古過ぎる学習資料というのは、やっぱり順次かえていくということが必要だと思いますので、その辺もよろしくお願ひしたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

資料の21ページです。南山城小学校の需用費の光熱水費、48万ぐらい増えてるんですけども、これは空調設備が新たにできたということで増えてるという理解をするんですけども、過去に私、一般質問でもいたしました、この南山城小学校オール電化で、全て電気で賄っております。そんな関係で、村長は代替のエネルギーですか、太陽光入れるとか、別のガスに変えるとか、いろいろ検討してみますと答弁をいただいたように思うんですけども、これは検討されたんですか、お伺いをいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

誰が答弁するの。指名しようか。いや、答弁聞いてないやろ。答弁もできへんのかい、どうなってんねん、それ。奥森君。

◎ 9番（奥森 由治）

もう次いきます。資料の38ページですか、社会教育事業の南山城村の職員手当ですね、嘱託職員を配置するという予算になっておりますけども、どういうお仕事をされるのかお伺いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

南山城村分室への人件費でございますけれども、学校・家庭協働支援本部事業というの
がございまして、現在、笠置町さんで活発にやっておられる組織でございますけれども、
南山城村においても同様の事業展開をしていくべく、新たな事業として増やしていくとい
うこととなります。したがって、その学校と地域と行政を結ぶような人が必要となっ
てまいります。その方の人件費を計上しているというところでございます。

◎ 議長（杉岡 義信）

奥森君。もうええのか。教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

学校と地域の協働っていうのが今、31年度、文科省から大きな取り組みの目玉になっ
ております。これまでも連合の方でもそれぞれ進めてきておりました。特に笠置町につ
きましては、学校支援本部という時代から進めてきております。これも去年、一昨年、学校
と地域が協働で子どもを育てていく、育てていくという取り組みを進めてきております。
これはかなり効果が高いですので、これにつきまして、次の31年度は南山城小学校でそ
ういう事業、もうちょっと言いましたら、地域の人が学校に入ってきていただく、それか
ら子どもたちもどんどん地域に出かけていくという形の協働本部事業ですね、これを取り
組み進めていくということです。行く行くは、連合全体で考えていきたいというふう
に考えております。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

もう一つお聞きしときたいと思います。これは各小中学校の教育振興費にかかわる部分
になると思うんですけども、前に教育長からもお話がありましたように、一般質問の答弁
でありましたように、来年度から英語授業の時数の増加によりまして、夏休みの短縮であ
るとか、一定の措置がとられるということで伺っております。この点については、委員
会でもお話を伺ったわけですけども、再度お聞きしときたいっていうふうに思いますのは、
今回やはり答弁では時数、そういった夏休みを短縮せざるを得なくなったという表現をさ
れておりましたけども、実際に本当にこの夏休みを短縮しなければ対応できないのかとい
うことなんですね。特に小学校につきましては、いわゆる文科省が決めております標準時

数等について言いますと、大変大きく越えてる部分があると思うんですね。そういった意味では、その範囲内での対応ができなかったのかどうかということをお聞きしときたいというふうに思いますのと、それからやはり夏休みを短縮するといいますと、先ほどから言われてますように、大変残暑厳しい折ということもありまして、今回の英語の授業が増えるという学年の部分について以外で、例えば小学校1年生とか、2年生とか、低学年の子も含めて短縮されるわけですよ。だからそういった点でいえば、今回の変更とは余り関係のない学年の子どもたちも含めて学校に行かなければならないということになります。そういった点のやはり、授業時数の増加による子どもたちへの身体的な、また精神的な部分でも含めて負担について、やはり教育課程上必要な措置だと思いますけども、やはり負担は大きく増えてくると思うんです。その辺の認識についてはどうお考えか、ちょっとお聞きしときたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）
教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

前から進めさせてもらっておりますが、英語の授業が増えて、それで文科省も枠は増えるんだけど、減らすもんがないっていう、これが厳しい現状にあります。ということは、連合だけでは当然ないわけでありまして、もう山城管内全部そうです。例えば30年度の夏休み短縮しなかったのは、まだ相楽だけです。相楽はここまで頑張ってきました。ということは、やっぱり子どもの負担とかいろいろありましたから、例えば他のところにつきましては、2年も3年も前から夏休み短縮っていう形で余裕持った教育課程を組んでおります。相楽管内につきましてもできるだけというところで来たんですが、英語の授業が正式には32年度から全面実施になるんですが、70時間、30年度は50時間でした。あと20時間増やしていこうと思ったら、どうしてもそのあたりについてやむを得ない状況です。学校というのは、例えば、岡本議員おっしゃるように、その学年だけでもいいんではないかということも、そういう考え方もあるんですが、教育課程上はやっぱりそうは行きません。じゃあ中学校はどうなるんかということですが、中学校につきましてもやっぱりこれまででかなり厳しいところでやってきておりましたので、ゆとりを持って学校生活過ごしてくれるのではないかとこのように期待をしております。いずれにしましても、保護者の方にも、早急にこれを知らせていく必要があると思いますので、教育委員会と校長連名で、早急に3月の頭ごろになりますか、保護者の方にも伝えて協力を求めながらやっというふうに思っております。以上です。

◎ 議長（杉岡 義信）
岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

いわゆる短縮することによって、学校の中での生活はゆとりを持ってという話はされておりましたけども、やはり今はいわゆる学習指導要領がどんどん変わっていく中で、大変教えられる教科も増えてくると。今度の英語もそうですけども、そういうので大変詰め込み的な状況もありますし、また学力テスト等のこともある中で、さまざまな課題なども子どもたちが毎日こなしていかなくちゃいけないという状況があります。その中であえて前倒しで今回20時間増やして、夏休みも短縮せざるを得ないというのは、やはり子どもたちの身体的な問題とか、そういうものも含めた配慮がどこまでされたのかなというふうには思うんです。で、平成32年度から本格実施でいいというものを前倒して20時間増やすってというのは、どういう判断で行われたのか、やはりそれだけのものを一気にやろうと思えば、やはり一番負担かかるのは子どもたちですし、あとそれを教える側の先生方にとっても、やはりさまざまな意味で負担がかかってくるというふうには思うんです。その辺の対応という点では、本当に他の部分で、夏休みを短縮するのではなくて、今現在やっている部分の中で削っていく部分というものをどこまで検討いただいたのかというのがちょっと見えてこない部分もあるんですけども、その辺もう一度いかがですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

教育長。

◎ 教育長（西本 吉生）

先ほども言いましたように、当初は32年度から70時間にいく予定をうちとしてもしておりました。ただ、連合管内の実態としまして、特に中学校の英語が数学や国語に比べてちょっと若干弱いというデータも出てきております。これも30年度から70時間に入ってる地域もあるわけです。そうなってきましたら、2年間にしたら40時間も違うんですね。だから、中学校に入るときに6年生が他の学校の子どもと比べて40時間の授業時数の差というのはやっぱりかなり厳しい状況があります。そういうことも踏まえて、総合的に判断して、やっぱり31年度から70時間に入ろうという結論に達したところです。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

今回そういった意味では、いろいろと土曜学習の関係であるとかいうのを見直すってことも先日言うておられましたけども、やはり一定の配慮をしなければ大変負担が増えるってことは明らかなだというふうに思いますので、その子どもたちの状況や、また先生

方の働き方の問題もありますので、そこも含めて今後しっかりと把握いただいて、適切な対応の方を是非引き続き検討いただきたいというふうに思います。もう1点、今日はちょっと環境の関係でもう一点だけお聞きしときたいんですけども、施設は休止しますけども、やはりごみのいわゆるリサイクルであるとか、リユースであるとか、減量化であるとかっていう作業そのものは、やっぱり行政の責任として、業務として残ると思うんです。そういった点、先日さっきも言いましたけども、城南衛生管理組合の方に見学に行かせてもらって、そういったリユースの状況であるとかいうものを見学させてもらったんですけども、もちろんいろんなテールアルメの対応であるとか、民間委託のいろんな問題もあるんですけども、やはりその一番大事な部分のいわゆる再資源化という部分での取り組みっていうのは是非強化していただきたいというふうに思ってるんですが、特に先ほど出ていました粗大ごみ等の増加もありますけども、やはりそれをどう、ただ単に廃棄するだけじゃなくて、どう再利用していくかということは以前からお話しておりますけども、今後その辺のように検討していただけるか。先日管理組合の方で特によく言われていたのは、前にもやると言われてましたけど、自転車のリサイクル、リユースっていうものがかなり強くされておりました。それと衣服類のいわゆるリユースで販売をしていくということもかなり大規模にされているという状況がありましたので、そういうことも含めて、今後ごみ行政について改善いただきたいと思っておるんですけども、その辺の方向性についてちょっと説明だけいただきたいと思います。

◎ 議長（杉岡 義信）

環境課長。

◎ 環境課長（中嶋 孝浩）

うちの方も3Rといわれるような取り組みを今後もしていきたいなということで、せんだっても委託の関係で今後の処理の方向性を3町村の環境担当課長の方にお話をさせていただきました。その中で一定、ごみのいわゆる排出の仕様の問題、あとそれといわゆる再利用で減量化を図る方法等について、今後3町村によって取り組んでいきたいということで、3町村の関係課長を含めて意思統一をしているところでございます。具体的な中身については、まず民間委託の方の整理をきちとした上で取り組んでいきたいということで、今後、一般廃棄物処理計画、基本計画等の作成業務の中で、あわせて取り組んでいきたいなと考えておりますので、よろしくをお願いします。

◎ 議長（杉岡 義信）

ほかにありませんか。鈴木さん。

◎ 6番（鈴木かほる）

文教委員会のお話してたんですが、文化財の保護委員のことです。この予算書の資料の46ページのところで、去年までは各町村ごとに予算が立っていたのを一つにまとめたという話やったんですが、それ何か合計すると私の見間違いかなとも思うんですが、46ページ見ていただいたら一番上が笠置町の報酬10万8,000円、それから和東町の報酬3万6,000円、去年ですよ、それから村の報酬9万円なんです。これ合計すると23万4,000円なんです。ところが今年は、その下にある4のところですね、目のところに数字が4とありますが、これ文化財保護事業の報酬のところにまとめてあるのが16万2,000円なんです。で、引き算すると7万2,000円ほど少なくなってるんです。で、文化財の保護の条例もきちっと整ってなくてという話を前したと思うんですが、文化財保護委員会でやっていきますという話だったんですが、それにしても何で予算が減ってるのかなと疑問に思っています。

◎ 議長（杉岡 義信）

生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

ただいまの質問にお答えいたします。現在、文化財保護委員の委員数は12名でございます。したがって、その12名の積算をした結果16万2,000円と現計となっております。委員数が変動したものの、1名減っているという理由から、トータル額が減少しているというものでございます。

◎ 議長（杉岡 義信）

鈴木さん、今の聞こえた。聞こえてたら。鈴木さん。何となくでは困る。別件。これ続きと違うんかいな。

◎ 6番（鈴木かほる）

別件。だめですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

別件はちょっとな、もう。続きやったら。ちょっと皆さんにお伺いします。質疑がなければ、これで終結したいと思いますけど、どうですか。鈴木さん。

◎ 6番（鈴木かほる）

すみません。資料の45ページに村の18の備品購入のところに、村の図書室に事務用のノートパソコン1台を買うってあるんです。ということは、図書室のパソコンが1台増えるってことですか。

◎ 議長（杉岡 義信）

生涯学習課長。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

経年劣化による修理が必要であるというもので、現状OSの不安定が現象として起こっておりますので、備品購入として買い替えるというものでございます。

◎ 議長（杉岡 義信）

生涯学習課長、わかるように説明してください。

◎ 生涯学習課長（井上 浩樹）

故障すると思われますので、買い替えるということでございます。今、現象として常に故障しているわけではなく、OS等の起動が不安定であるということから、買い替える時期が来ているということでございます。

◎ 議長（杉岡 義信）

わかりました。鈴木さん。

◎ 6番（鈴木かほる）

ということは、あそこにあるノートパソコンが入れ替わるんですね。で、受付のところにある2台はそのまま使うってということですか。だから、合計3台はそのままいけるってということですね。わかりました。

◎ 議長（杉岡 義信）

これで質疑を終結いたします。これから討論を行います。討論はありませんか。まず反対者の発言を許します。岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

和東町の岡本です。議案第4号に対する反対討論を行います。

◎ 議長（杉岡 義信）

岡本君。

◎ 1番（岡本 正意）

はい。

◎ 議長（杉岡 義信）

簡潔にな。

◎ 1 番（岡本 正意）

簡潔にまとめてますので。今回の連合全体としての予算は、前進面として評価できる策ももちろんあり、その点について努力いただいたことには感謝申し上げたいと思います。一方で、もう少し努力いただきたい点、また不十分と思われる点もあり、その改善や充実を求める立場から討論をいたします。まず、教育委員会関連の事業についてですが、今回の予算では小学生の校外学習費負担の無償化や、学校トイレの洋式などで前進が見られ、その点は大いに評価するものです。その上で、改善・充実が必要な点については、校外学習費については、中学生の分については次年度以降とされておりすけれども、今後、先送りをせずに予算をいただきたいこと。卒業記念関係など各学校ごとで違いが残る保護者負担については、速やかに助成いただくこと。教育課程の関連では、特に小学校での英語科の前倒し実施に伴う授業時数の増加と夏休みの短縮に伴う子どもたちや先生方への影響を十分に把握され、適切に対応いただくこと。学校図書館司書の配置を思い切って改善いただくこと。高校生通学補助制度の改善に直ちに取り組んでいただくこと。社会教育の面では、各町村の図書室、図書事業の位置づけを高め、改善いただくこと。社会教育を推進する職員体制を強化いただくことなどを指摘し、要望いたします。私は広域連合による教育委員会の運営は、根本的に誤りであり、連合の事務から外すべきだと一貫して考えておりますし、連合ではなくてはならない理由は何ひとつありません。統廃合し、連合教育委員会になって、10年が経過しましたが、教育行政を丸ごと広域連合に丸投げするような事例は10年前も今もここ東部連合だけです。10年前と比べて、児童生徒の減少、人口の減少が著しく進む中で、一般質問等でもありましたように、これからの学校や教育のあり方、社会教育のあり方などが、これまで以上に問われております。このような中で、より身近で地域に密着した議論や施策が、教育行政でも、議会でも、地域でも必要とされているのではないのでしょうか。にもかかわらず、各町村議会では、議論もままならず、村や笠置におかれては、何ら権限のない分室しかなく、地域にとって、教育行政が10年前と比べても大変遠い存在になっていることは、明らかであります。今こそ、各町村に対応し密着した教育委員会、教育行政が求められていると確信いたします。現場も、当事者も無視をして、統廃合を強行した過ちを自覚され、各町村に事務を戻されることを真剣に検討いただきたい。このことを改めて求めたいと思います。次に、環境行政の関連では、ようやく裁判が終わり、地元との稼働期限の約束をとりあえず守られたことは評価したいと思いますが、4月からのごみ処理の方針がぎりぎりまで示されず、大きな変更であるにもかかわらず、事前の説明などがほとんどない中で、また、委託業者との調整がいまだ終わらない段階で予算を提案されたことは、遺憾であり、極めて不適切な対応と言わざるを得

ません。そのような現状では、賛成できません。最後に、広報発行事業についてですが、以前からも指摘しておりますように、広報紙の発行は各町村で行うべきことであり、各町村の住民に、より丁寧でわかりやすく、豊富な内容を提供する環境に戻されるべきだと考えております。以上の点を指摘し、反対討論といたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

次に、賛成者の発言を許します。坂本君。

◎ 8番（坂本 英人）

今回の当初予算の賛成討論をさせていただきます。教育行政については、10年が経ち、ひと段落というようなイメージが僕の中でついております。しかし、この東部3町村、絶対に人口が限りなく減少していき、笠置町では、本当に小学校の取り組みも厳しくなってくるのだと思います。環境においても、先ほど言いましたとおり、まちの財産は何なのか、文化とは何なのか、そういうことがこの東部広域連合で考えていけるという幸せを皆さんで培っていけるこの組合は、僕は大きい賛成してまいりたいと思っております。この近い未来に、必ず東部3町村でなければ動いていかないことも絶対に出てくる。その未来をみんなで作る一歩目を、この10年間、教育行政、そして20年間、環境行政、皆さんでつくってきたんだと思っております。そして、僕ら、この30代の世代がまた次の10年間を力いっぱい生きていくためにも、この議会が、この行政が、みんな一丸となっていけるように、来年度予算で有意義なものをつくってってください。よろしく申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

これで討論を終結いたします。これより採決します。議案第4号 平成31年度相楽東部広域連合一般会計予算について、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。挙手多数です。したがって、議案第4号 平成31年度相楽東部広域連合一般会計予算については、原案のとおり可決されました。この際、15分間休憩します。議場の時計で32分まで休憩です。

（休憩 15：17～15：32）

◎ 議長（杉岡 義信）

休憩前に引き続き、再開します。日程第9 同意第1号 相楽東部広域連合教育長の任命についてを議題といたします。本件は人事に関する案件でありますので、先例により、西本吉生君の退場を求めます。

(西本教育長 退場)

◎ 議長 (杉岡 義信)

提案理由の説明を求めます。堀連合長。

◎ 広域連合長 (堀 忠雄)

相楽東部広域連合教育長の任命について、ご提案申し上げます。教育長につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第5条の規定により、3年の任期となっておりますが、現教育長の任期満了に伴い、西本吉生教育長を改めて新教育長として任命しようとするものであります。よろしくご審議の上、ご同意を賜りますようお願い申し上げます。

◎ 議長 (杉岡 義信)

続いて、議案の説明を求めます。事務局長。

◎ 事務局長 (安原正康)

同意第1号 相楽東部広域連合教育委員会教育長の任命についてご説明させていただきます。教育長の職につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第5条の規定により、3年の任期となっております、現在の教育長の任期が今年3月31日までとなっております。つきましては同法第4条第1項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。住所、京都府木津川市南加茂台1丁目1番地の10、氏名、西本吉生、生年月日、昭和23年4月20日の方でございます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

◎ 議長 (杉岡 義信)

お諮りします。この案件は人事案件ですので、質疑・討論を省略し、採決することにしたと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎ 議長 (杉岡 義信)

異議なしと認めます。質疑・討論を省略します。この採決は、挙手によって行います。これより採決します。同意第1号 相楽東部広域連合教育長の任命について、同意することに賛成の方は挙手願います。挙手多数です。したがって、同意第1号 相楽東部広域連合教育長の任命については、同意することに決定しました。西本吉生君の入場を求めます。

(西本教育長 入場)

◎ 議長（杉岡 義信）

西本吉生君を、相楽東部広域連合教育長の任命に同意することに決定しましたので、ご通知申し上げます。西本教育長、挨拶。

◎ 教育長（西本 吉生）

ただいま、教育長の任命につきまして、議員の皆様からご同意をいただいたとの通知を受けました。身の引き締まる思いをしております。2019年は、いろんな意味において新しい時代の幕あけであると認識しております。連合教育委員会も、設立以来11年目という新たなサイクルに入ります。地方創生の一翼を担うためにも、相楽東部の明日を切り拓く人づくりを一層推進すべく、重大な時期にあって、教育長という職責の重さをひしひしと感じております。もとより浅学非才の身ではありますが。よって、これまで以上に研さんに努め、「気づく力」「伸ばす力」「展望する力」「挑戦する力」「つながる力」の5つの力に一層の磨きをかけて相楽東部の教育の充実・発展に全力投球してまいりたいと考えております。議員の皆様、正副連合長様、参与様、関係者の皆様には、なお一層のご理解・ご協力、そしてご指導を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いをします。

◎ 議長（杉岡 義信）

日程第10 同意第2号 相楽東部広域連合教育委員会委員の任命についてを議題といたします。提案理由の説明を求めます。堀連合長。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

相楽東部広域連合教育委員会委員の任命について、ご提案を申し上げます。相楽東部広域連合教育委員会の中井薫委員の任期満了に伴い、新たに村田年宏さんを委員に任命するものでございます。ご本人の了解を得ておりますので、よろしくご審議の上、ご同意賜りますようお願い申し上げます。

◎ 議長（杉岡 義信）

続いて、議案の説明を求めます。事務局長。

◎ 事務局長（安原正康）

同意第2号 相楽東部広域連合教育委員会委員の任命について、ご説明させていただきます。現在、連合教育委員会委員は4名おられますが、そのうち、1名が今年3月31日に任期満了になることから、新たに相楽東部広域連合教育委員会委員に任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により、議会の同意を求め

るものでございます。住所、京都府相楽郡和東町大字南小字大林46番地、氏名、村田年宏、生年月日、昭和28年11月12日生まれ、65歳の方でございます。木津川市立加茂小学校の校長先生をされていた方で、木津川市学校教育課指導主事の後、現在は、木津川市人権推進課で指導員として、勤務されておられる方でございます。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

◎ 議長（杉岡 義信）

お諮りします。この案件は人事案件ですので質疑・討論を省略し、採決することにしたと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

異議なしと認めます。質疑・討論を省略します。これより採決します。この採決は、挙手によって行います。村田年宏君を相楽東部広域連合教育委員会委員の任命に同意することに賛成の方は挙手願います。挙手全員です。したがって、村田年宏君を相楽東部広域連合教育委員会委員の任命に同意することに決定しました。日程第11 委員会の閉会中の継続審査及び調査についてを議題といたします。各委員長から、会議規則第76条の規定により、お手元に配付の申し出一覧表のとおり、閉会中の継続審査及び調査の申し出があります。お諮りします。各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査及び調査に付することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎ 議長（杉岡 義信）

異議なしと認めます。したがって、各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査及び調査に付することに決定しました。以上で、本日の日程は、全部終了しました。本日の会議を閉じます。堀広域連合長、挨拶。

◎ 広域連合長（堀 忠雄）

平成31年相楽東部広域連合第1回定例会を閉会にされるにあたりまして、一言御礼のご挨拶を申し上げさせていただきたいと思っております。まずはご提案を申し上げておりました議案につきましてご議決いただき、そしてご同意をいただきました。ありがとうございました。今回皆様の議案が一般質問、いろいろのご審議の中を通じて、いろいろなご意見をいただきました。これらご意見を重く受けとめながら今後の連合行政に生かしてまいりたい、このように思っているところでございます。これからも議員の皆さん方には一層のご

指導・ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げまして、閉会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。今回はどうもいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

◎ 議長（杉岡 義信）

これをもちまして、平成31年相楽東部広域連合議会第1回定例会を閉会します。本日はご苦労さまでした。